

平成30年度  
近江八幡未来づくりキャンパス 地域資源活用塾  
実施報告書



平成31年3月  
株式会社まっせ

# 目次

---

1. はじめに .....	4
(1) 地域資源活用塾の目的について	
(2) 第1期・第2期の取り組みの分析	
(3) 第3期の方針について	
(4) 実施体制について	
(5) 講座カリキュラムについて	
(6) 全体スケジュールについて	
(7) 広報活動について	
2. 講座について .....	11
(1) 第1回講座	
(2) 第2回講座	
(3) 第3回講座	
(4) 成果報告会	
3. グループワーク・個別支援 .....	67
(1) グループワーク・個別支援の方法について	
(2) 塾生の募集について	
(3) 各グループの活動について	

資料1 第1回講座配布資料（平成30年9月29日開催）

- (1)次第
- (2)ガイダンス資料
- (3)レクチャー資料①（中野桂氏）
- (4)レクチャー資料②（まっせ田口）
- (5)宿題の説明資料

資料2 第2回講座配布資料（平成30年10月13日開催）

- (1)次第
- (2)チーム分け案
- (3)レクチャー資料（山元圭太氏）

資料3 第3回講座配布資料（平成30年11月17日開催）

- (1)次第
- (2)中間発表サマリー
- (3)中間発表資料（子育て支援チーム）
- (4)中間発表資料（西の湖さとうみプロジェクトチーム）
- (5)中間発表資料（沖島チーム）
- (6)中間発表資料（学生団体BONDチーム）
- (7)成果報告資料（伝統×日常チーム）
- (8)レクチャー資料（小俣健三郎氏）

資料4 成果報告会配布資料（平成31年3月3日開催）

- (1)次第
- (2)コメントシート
- (3)経過報告資料
- (4)成果報告資料（子育て支援チーム）
- (5)成果報告資料（伝統×日常チーム）
- (6)成果報告資料（西の湖さとうみプロジェクトチーム）
- (7)成果報告資料（学生団体BONDチーム）
- (8)成果報告資料（沖島チーム）
- (9)レクチャー資料（中澤ちひろ氏）

# 1. はじめに

---

## (1) 地域資源活用塾の目的について

近江八幡未来づくりキャンパス「地域資源活用塾」(以下、「塾」という。)は、地域資源を活用して、地域の社会的課題の解決につながる生業づくりや、社会起業を構想・実践する人が創出される仕組みづくりを目的に取り組んだ。

## (2) 第1期・第2期の取り組みの分析

第1期・第2期の塾を終え、近江八幡市未来づくりキャンパス推進会議での検証から、下記4点が課題となっていた。

- ✓ 3～4回の講座のみでの目的達成の難しさ
- ✓ 塾終了後の継続的なフォローアップ体制の必要性
- ✓ 主体的な地域活動を高め合う市民リーダーのネットワークづくり
- ✓ 地域に根付いて活動しているまちづくり協議会や既存団体との連携

## (3) 第3期の方針について

上記の現状分析を踏まえ、第3期は下記の2つのことに取り組んだ。

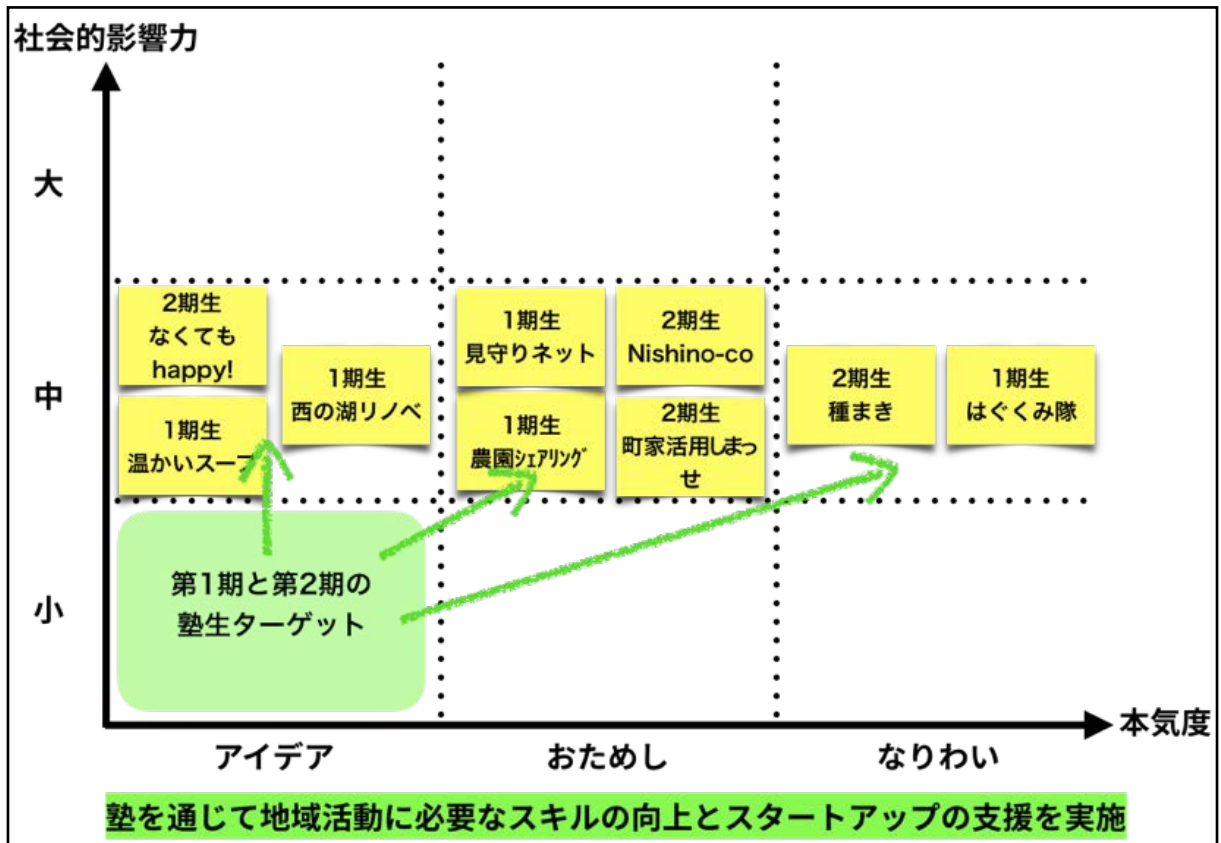
### ①地域活動のスタートアップ型からスキルアップ型へ

- ✓ これまでのスタートアップ型の支援講座から、まちづくり協議会や既に活動している人々を対象に既存の活動を見直しソーシャルインパクト(社会的影響力)と本気度を高めるスキルアップ講座へ。
- ✓ 講座は塾に関するガイダンスのほか、ソーシャルビジネスをテーマとする基礎レクチャー、中間発表と全体講座、最終発表会の4回のプログラムの開催と、講座間の各個別支援に力を入れることで個別のテーマや課題に応じたフォローに注力した。

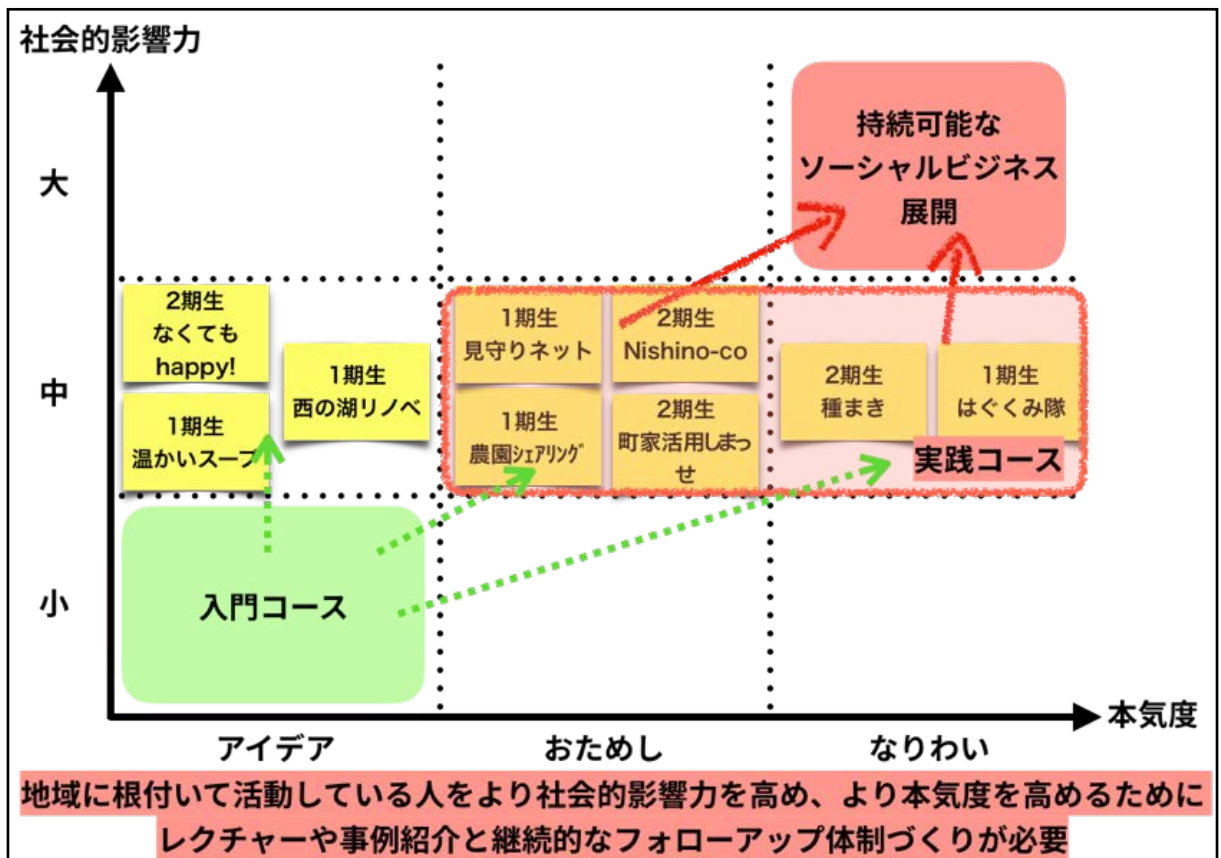
### ②地域活動をサポートする中間支援組織づくりへ

- ✓ 塾終了後の継続的なフォローアップや、官民連携による地域活動に関する総合相談窓口などの中間支援機能を発揮すべく「未来づくりキャンパスラボ」の運営支援を行なった。
- ✓ 卒業生との縦のつながりや、地域内外の実践者をつなぎ連携を可能にするネットワークをつくり、地域における内発的な課題解決に取り組む活動の醸成へ取り組んだ。

【第1～2期の塾の特徴について】



【第3期の塾の狙いについて】



## (4) 実施体制について

### ○事務局

第3期の塾の運営について、受託業者である株式会社まっせのスタッフ3名を中心に塾全体マネジメントと各グループの伴走支援業務に取り組んだ。

氏名	所属・役職	担当業務、保有資格等
田口 真太郎	株式会社まっせ マネージャー	<b>【担当業務】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・業務全体統括</li><li>・講座進行</li><li>・個別支援メンター（1グループ）</li><li>・事業完了報告書作成</li></ul> <b>【類似業務経験】</b> <p>平成28年度、平成29年度「近江八幡未来づくり キャンパス地域資源活用塾企画運営業務」</p>
的場 保典	株式会社まっせ	<b>【担当業務】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・個別支援メンター（2グループ）</li><li>・講座進行（補助）</li></ul>
深尾 善弘	株式会社まっせ	<b>【担当業務】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・個別支援メンター（2グループ）</li><li>・講座報告書作成、ホームページ・ SNSによる情報発信</li><li>・事業完了報告書作成（補助）</li></ul> <b>【類似業務経験】</b> <p>平成28年度、平成29年度「近江八幡未来づくり キャンパス地域資源活用塾企画運営業務」</p>

## ○専任講師（統括ディレクター）について

専任講師（統括ディレクター）には、第1回・第2回の地域資源活用塾でも専任講師を担っていただいた山元圭太氏に担当していただいた。事務局と連携して、塾全体を通じた塾生のアクションプランづくりの支援に取り組んだ。

氏名	山元 圭太（やまもと けいた）
所属・役職	合同会社喜代七 代表 日本ファンドレイジング協会 理事
保有資格等	日本ファンドレイジング協会 認定ファンドレイザー
経歴	1982年滋賀県生まれ。同志社大学商学部卒。 大学卒業後、経営コンサルティングファームで経営コンサルタントとして、5年間勤務の後、2009年4月に認定NPO法人かものはしプロジェクトに入職。日本事業統括としてファンドレイジングや組織構築を担当。2014年9月に独立し、日本各地のソーシャルベンチャーやNPOのコンサルティング・支援を行なっている。 専門分野は、NPO戦略立案、ファンドレイジング、ボランティアマネジメント、組織基盤強化など。
類似業務実績	・近江八幡未来づくりキャンパス「地域資源活用塾」専任講師 ・「幸雲南塾」講師・運営支援（島根県雲南市）

## ○専門家について

第3回の中間報告と、第4回の成果報告では専門家を招聘し、塾生のアクションプランに対する指導と助言をいただいた。なお、招聘する専門家は近江八幡市未来づくりキャンパス推進会議と連携し、以下同会議委員に依頼し、成果報告会では委員からのコメントシートでのフィードバックをいただいた。

氏名	所属・役職
横山 幸司	滋賀大学 社会連携研究センター 教授
山口 敬太	京都大学大学院 工学研究科 准教授

## (5) 講座カリキュラムについて

- 地域資源活用塾に「入門コース」「実践コース」の2コースを設置し取り組んだ。
- コース毎の想定参加対象者は以下の通りであり、近江八幡市と連携して募集を行った。

コース名	対象
入門コース	・ ソーシャルビジネスに興味のある方
実践コース	・ 近江八幡市において何らかの活動を実践している方 ・ 「地域資源活用塾」第1・2期生 ・ 地域活動団体に所属し、地域課題解決に意欲のある方 ・ 専門知識を有した学生 など

- 「入門コース」では、社会起業に関する基礎知識習得を目的とし、全体講義の受講対象とした。
- 「実践コース」では、社会起業に向けた具体的な活動実施を目的として、全体講座受講に加え、取り組みたいテーマや事業構想毎にチーム編成を行い、個別支援を実施した。
- 入門コース塾生の希望に応じて、実践コース塾生の個別グループワークへのサポーターとしての参加について調整を行った。
- 塾生同士のネットワーク形成を図るため、メーリングリストを作成し、塾生の情報共有を促すほか、効率的な塾運営のための連絡体制を構築した。



## (6) 全体スケジュールについて

### ○講座の全体構成とスケジュールについて

第3期講座は3回の講座と、各講座の間の期間の実践コースの塾生支援として月に2回程で合計10回程度のグループワーク、そして最後に成果報告会を開催し、塾生のアクションプランの形成を目標にプログラムを推進した。

スケジュール及び各コースの対象については下記の通り実施した。

開催日時	活動	入門コース	実践コース
平成30年8月24日～9月14日	塾生募集	○	○
平成30年9月29日(土) 10:00～12:00(9:45開場)	開校式(オリエンテーション) 第1回講座「ビジョンを見直す」	○	○
平成30年10月13日(土) 13:00～17:00(12:45開場)	第2回講座「アクションプランをつくる」	○	○
	【グループワーク(3回程度)】	—	○
平成30年11月17日(土) 10:00～17:00(9:45開場)	中間発表会 第3回講座「アクションプランを磨く」	○	○
	【グループワーク(7回程度)】	—	○
平成31年3月3日(日) 13:00～17:00(12:45開場)	成果報告会 ワークショップ「塾生プラン・パワーアップ会議」	○	○

## (7) 広報活動について

### ①ウェブサイト更新・情報発信

- 全体講義や報告会終了時には、1週間以内を目途として、専用ウェブサイト（http://omi8-campus.jp/）へ活動レポートや写真・動画等を掲載し、塾の広報に努めた。
- SNSによる情報発信として、Facebookを活用し情報発信を行なった。業務期間中、月2回程度の更新を行い、受講生（チーム）の活動状況などを紹介した。
- 写真や動画の撮影にあたっては、ウェブサイトやSNSへの掲載に加え、近江八幡市の事業広報へ活用される可能性について、受講生へ説明し了承を得て情報発信を行なった。

### ②受講生募集に係るサポート

- 近江八幡市の受講生募集に協力し募集活動に取り組んだ。
- 想定受講生となる、「地域資源活用塾」第1・2期生への募集案内について、連絡・案内を行なった。



上：facebookページでの情報発信イメージ

右：専用ウェブサイト内の活動レポートページでの情報発信イメージ



## 2. 講座について

本塾では、期間内に3回の講座と、成果報告会を企画実施した。毎回テーマを設定し、外部講師を各回ごとに招聘し、レクチャーと意見交換やグループワークに取り組むことで、塾生のプランづくりを行った。各回の概要および内容は以下のとおり実施した。

### (1) 第1回講座

#### ■概要

名称	第1回：ビジョンを見直す
概要	オリエンテーションを通じて各々の活動のビジョンを見直し、アクションプランづくりに向けた準備を行った。
日時	平成30年9月29日（土）10:00～12:00（9:45開場）
会場	近江八幡商工会議所 2階中ホール
内容	○オリエンテーション ・開校式 ・塾の概要説明  ○講義 「地域を豊かにするソーシャルビジネスについて」 ・講師：中野 桂（滋賀大学 教授）
宿題	ビジョンシートの作成

#### ■詳細



#### ○開講

講座の開催にあたり、塾長である小西理近江八幡市長より、挨拶と受講者への激励があった。

### ○講師の紹介

DAY1の講師は、滋賀大学経済学部経済学科教授の中野桂（なかの・かつら）先生が務めた。地域活動に必要なビジョンづくりに関するレクチャーをしていただいた。



### ○自己紹介タイム

講義に入る前に、まずはテーブルごとに自己紹介タイムを実施した。

4人1組になり、自己紹介、興味関心、今日の目標などを共有し、アイスブレイクを行なった。集まった同じ志を持った塾生から、どのようなものが生み出されていくか、考える時間を設けた。





### ○講義「地域を豊かにするソーシャルビジネス」

アイスブレイクで会場の雰囲気がほぐれたところで中野先生の講義に移った。

世界各地のソーシャルビジネスに精通し、大学で講義もされている中野先生から、今回は「地域を豊かにするソーシャルビジネス」をテーマに講義をしていただいた。

#### ・ほとんど全てのビジネスはソーシャルビジネス

まず初めに、世の中にあるほとんど全てのビジネスはソーシャルビジネスだということについて話していただいた。

ソーシャルの反対は反社会的であり、反社会的なビジネスというのはほとんど存在しないのがその理由だということであるということ。また、新しいビジネスを立ち上げるために市場調査をすると、ついつい需要がありそうな部分にばかりに目がいきがちだが、そこには大企業含め大勢が集中するので極端な差別化をしないとイケなかったり、強迫観念を持ってしまいがちであるということ。なので、ニッチな部分にこそある「本当の需要」を大事にすることが肝心だというレクチャーがあった。

#### ・「課題先進国、日本」ーピンチをチャンスに変えられるかー

次に、少子高齢化や温暖化問題など、「課題先進国」と言われている日本だが、そもそもしたいことが見つけられていなかったり、疑問に思うことがない人がいるのでは？という観点で共有いただいた。日頃から五感を最大限に働かせ疑問に思ったこと、イラッとしたことを見逃さないことが大事ということ。そして、その抱いた感情や疑問をそのままにせず解決をするよう試みることで、自分にやりたいことや疑問に思うことができ、それを柔軟な発想とデザインによって、ソーシャルビジネスなどといった新しいものを生み出すことに繋がっていくということである。

## ・課題解決方法

小さく早く失敗をすることが大事である。

海外では、マシュマロチャレンジというパスタ20本、テープ、マシュマロ1つのみ使用し、終了時間までにマシュマロをどれだけ高くまで上げることが出来るかという企画が、一時期流行した。そのチャレンジでは子どもたちが大人を上回る結果を出す場合が多かったという事例の紹介があった。

頭で考えることから始め、なかなか組み立てを始めない大人に対し、子どもたちはとにかくやってみて、ダメなら都度改良していきます。課題解決にはこういった姿勢が必要なのだということ。そして、普段の環境でも変化のない環境よりも、想定外のことが起きる環境にいる方が自ら感じとって行動が出来るのだということ。

最後に一言、理論よりも実践が大事なことを強調するため、「事件は現場で起こっている」という某有名映画のセリフを引用し、講義を締めくくられた。

## ○「近江八幡の過去・現在・未来を知る」

2つ目のレクチャーでは、株式会社まっせの田口から近江八幡市の概要についてのレクチャーを行った。



## ・近江八幡市の概要

近江八幡市は、滋賀県のほぼ中央に位置し、琵琶湖最大の島である沖島や、ラムサール条約の登録湿地であり琵琶湖で一番大きい内湖である西の湖を有している。また、ヨシの群生地である水郷地帯は琵琶湖八景の一つでもある。古くから、農業を中心に栄え、交通の要衝という地の利を得て、多くの城が築かれた。

## ・数字で見る近江八幡市

近江八幡市は守山市に対して、人口総数は同等であるが、高齢化率が比較的高く、また転入者数は少ない状況にある。これは、守山市のほうが比較的若い方々が転入されてきていることを意味する。

近江八幡市への観光客は、関西圏からは日帰りで来られる方が多く、関東圏からは宿泊客が増えてきている。宿泊所が足りていない現状についても紹介した。

## ・人口減少の問題

現在、人口減少は社会問題となっており、近江八幡市にとってもその影響は大きいといえる。30年前から現在にかけては、人口が約8,000人増加したが、これから25年後には、30年前の水準以下まで人口減少すると予想されている。

また、高齢化率に関しても、30年前から上昇傾向にあり、25年後には更に上昇すると予想されている。よって、日本全国でこれまでに経験したことのない社会問題に直面している。

これからの私たちの生活にも大きく関わっていくことから、どのように影響が生じてくるのか今一度考えておきたいポイントであるということについてレクチャーを行なった。

## ○これからに向けて

レクチャー終了後、本日学んだことや感想などをテーブルごとに共有した。




- ・もっと柔軟性をもって考えていきたい！
  - ・同じ志をもつ仲間として、今後とも塾生同士、意見交換等をしていきたい！
- など、受講者の方々からは第2回以降に向け期待する感想があった。

最後に、自分の取り組みを4コマで紹介する「ストーリーテリング」などのシート作成を、

次回までの課題とすることの確認を行い、第1回講座は終了した。

ワーク①「ビジョン」を描いてみよう！



1

ワーク② 四コマシート

主人公			困難
	①	②	
	③	④	
努力/支援			成果

2

ワーク③ ビジョンステートメント

●対象者

が

●理想の状態

な

(地域名)

をつくる

3



## (2) 第2回講座

### ■概要

名称	第2回：アクションプランをつくる
概要	一人ひとりのビジョンを元に、取り組みの現状把握と将来目標を見直し、実現に向けたアクションプランづくりに取り組んだ
日時	平成30年10月13日（土）13:00～17:00（12:45開場） （※講座終了後、参加費制での交流会開催。）
会場	近江八幡商工会議所 2階中ホール
内容	○講義 「ソーシャルビジネスのアクションプランをつくる」 ・講師：山元圭太（合同会社喜代七 代表）  ○ワークショップ ・ビジョンを元にビジネス種別のマッピング作成 ・目標達成に向けたアクションプランの作成
宿題	アクションプラン（事業計画書）の作成

### ■詳細

#### ○チェックイン

講座の開始前に、まずアイスブレイクを実施した。

テーマが近いメンバーで仮に構成された各班ごとに、「自己紹介」と「24時間以内にあった良かったこと」を共有した。



## ○宿題（プラン）発表

アイスブレイクが終わったところで、DAY 1の宿題を発表に移った。

ワークシート3枚を使って、自分のビジョンやプランを各自2分で発表を行なった。

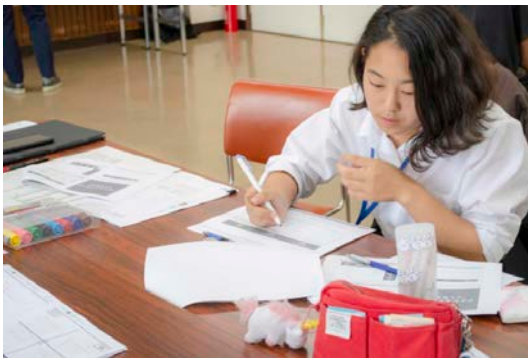




- ・西の湖で子どもたち向けの創作体験をし、遊んで感じて学べる場所にする
  - ・空き町家を活用し高齢者が安心して暮らしていけるまちをつくる
  - ・沖島で島民と暮らしを共にし高齢化現象等の問題解決に取り組んでいく
  - ・高校生がもっとまちづくりに関わっていけるようにする
- など、多くのプランが発表があった。

### ○グループづくりへ

それぞれのプランを共有した後に、チーム結成に向けた情報の整理を行った。プランの方向性が近い塾生同士が集まり、5つのグループを作った。



## ○講義

DAY2の講師は、本塾の統括ディレクターでもある合同会社喜代七代表の山元圭太（やまもと・けいた）さんが務めた。滋賀県草津市のご出身で、現在は全国のソーシャルベンチャーやNPOのコンサルティング、支援を行っており、DAY2講師に加え、各回ワークショップなど塾生のトータルサポートも行っていただいた。



今回は、昨年までの4回分の講義を凝縮し、「アクションプラン作成」についてご講義していただいた。

### ・アクションプランをつくるまえに

まず本題に入る前に、ビジネスには「エコノミック（経済）」「ソーシャル（社会）」「ライフ（生業）」の3種類があり、各塾生のプランがどれなのか、またどのような割合なのかという話から始まった。正解があるわけではないが、極端にどれかに偏っていたりすると危険で、3種類全てが入っていれば一番良いということである。

次に、自分たちのプランが「まちにどれだけ必要なことなのか（ソーシャル度）」と、「気持ちの入っている度合い（入魂度）」といったベクトルで現在から3月までにどこまでもっていきたいのか確認を行なった。

### ・アクションプランづくり

ソーシャルビジネスを成立させる5つのステップのうち、3つの要素を集中的に講義を行なった。

### ・一つ目：「問題構造」（調査/分析計画づくり）

地域調査は、対象となる地域の人々のことを理解でき、活動の対象者がいることを第三者に

伝えられるのでやると良いということである。

また、地域調査の方法は「聴く」「調べる」「測る」の3ステップがあり、「聴く」は対象者のことを知り、「調べる」は聞き取った話から出来た仮説を裏付けるために統計や先行研究を調べ、「測る」は仮説が正しいかどうかをより多くの人を対象にアンケートを行い確かめることということであった。

#### ・二つ目：「問題解決仮説」（問題解決事業づくり）

2つ目に、3月までにどんな活動をしていくのかより具体的にイメージしやすいようにと、奥出雲町での取り組みの事例の紹介があった。

活動計画づくりには、「何を実現するために」、「何をするのか?」、「そこに誰に参加してもらいたくて」、「いつ/どこでなら参加しやすいか?」、「これからをどうやって実現させるのか?」の5つのポイントが大事だということであった。

#### ・三つ目：「財源基盤」（資金調達計画づくり）

資金源については、大きく分けて「会費」「寄付」「事業収入」「助成金」「委託」の5つがあり、資金調達のしやすさや使う際の自由度などそれぞれに特徴があるが、活動を持続可能なものにするためには、一つの資金源に依存するのではなく活動のフェーズごとに使い分け、組み合わせるということが重要だということを説明された。

講義全体を通じて、各テーマが切り替わるごとに山元さんが塾生から質問を受け、またグループ内共有の時間を設けることで、会話が行き交うような講義となった。

#### ○グループワーク&相談タイム

講義が終了し、講義内容を踏まえ各グループごとに感想や意見、各々のプランの今後についてなどを共有する意見交換を行なった。



最後に、次回までに、各グループでアクションプランづくりを実施し、本格的に活動準備を行い、経過に関する中間報告を行うことをアナウンスし、講座が終了した。

### (3) 第3回講座

#### ■概要

名称	第3回：アクションプランを磨く
概要	つくりあげたアクションプランを一度発表し、講師や出席した推進委員と磨き直した。
日時	平成30年11月17日（土）10:00～17:00（9:45開場）
会場	近江八幡市総合福祉センター ひまわり館 研修室
内容	<p>○中間報告（進行：まっせ）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実践コースの塾生プラン発表</li><li>・専任講師と専門家からアドバイス</li></ul> <p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「幸雲南塾の取り組みと雲南市におけるソーシャルビジネスの展開について」</li><li>・講師：小俣 健三郎（NPO法人おっちラボ 代表理事）</li></ul> <p>NPO法人おっちラボ 事務局長／コーディネーター 1981年東京都生まれ 法科大学院卒業後、主に企業法務を扱う弁護士として約4年半経験。2015年6月におっちラボに加入。幸雲南塾の運営のほか、ビジネスセクターや都市部との連携強化を担当している。</p> <p>○ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アクションプランを磨くための個別面談</li></ul>
宿題	<ul style="list-style-type: none"><li>・アクションプランに沿った活動の実施と検証</li><li>・アクションプランの更新</li></ul>

#### ■詳細

11月17日に地域資源活用塾のDAY3を開催した。

DAY3は、中間報告会（午前中）、個別グループワーク&講師レクチャー（午後）の3部構成で行なった。

#### ◆チェックイン

まずはチェックインとして、チーム毎のテーブルに入門コース受講生がそれぞれ参加し、自己紹介・24時間以内にあったグッドニュース・今日のDAY3に何を期待しているかについてテーブルごとに共有し、アイスブレイクを行なった。

#### ◆中間報告会

滋賀大学（社会連携研究センター）の横山教授と、（合）喜代七代表の山元圭太さんをアドバイザーとしてお招きし、DAY2以降、各チームが取り組んできた成果について中間発表を行った。

## 1) 子育て支援チーム

トップバッターは、子育て支援チームのリーダーの西村さんから、出産から育児まで、連続性のある子育てを支援するために、空き家をフリースクールとして活用するという取り組み内容が発表された。



これまでの活動では地域リサーチの一環として、子育て支援に関する行政担当者を訪問し、自分達の問題意識や、やりたいことを相談してきた。時間を掛けてきちんと話ができ、活動について理解を示してもらえたことが好印象だったということ。

チームのビジョンとして、「〇〇な親が安心して子育てできる近江八幡」を掲げ、ちょっとした悩みを聞いてもらえる場所、何気ない相談をとおして問題を発掘できる場所、そして連続性のある子育てを発信できる拠点として、2月のプレオープンをめざして、八幡堀近くの空き家を活用するプランが発表された。

メンターの的場からは、参加費やプレオープンの内容を模索しているところであるなど、今後の方向性に関してフォローがあった。

## 【アドバイザー講評】

(山元氏)

- 事業戦略を策定するにあたっては、「マーケット>ターゲット>ポジション」を意識する必要があり、マーケットの中で自分達の取り組みが果たすポジション（役割や強み）を明確にすることで、取り組み内容が充実していくことができる。
- 今後、フリースクールプレオープンの準備にあたっては、子育てに関する小さな問題や悩みを持っていそうなターゲットにアプローチしてはどうか、また、マーケットの全体像を捉えるために、子育て世代が多い住宅地の分布や行政が保有する子育て関連のデータを活用してはどうか。

(横山教授)

- 行政ができないこと、住民に任せの方がうまくいくこと、住民の力を結集することでうまくいくこと、既に住民の力で活動できていることなど、地域連携の形は様々であり、協働の観点からもフリースクールと空き家活用のコラボレーションは発想として素晴らしい。





## 2) 西の湖チーム

西の湖チームの発表者は、リーダーの林さんが行なった。最初に、動植物のエコトーンとしての役割や、人間の文化や経済との関わり合いなど、多面的な西の湖の機能とその魅力について、林さんお手製の紙芝居によるプレゼンテーションがあった。

紙芝居には、人間の手が適度に入ることによって保たれる「さとうみ」の魅力をもっと発信したいという想いが詰まっていた。

その後、これまでの調査結果として、西の湖はまるごと博物館になるくらい学びの要素にあふれていること、そして周辺では既にたくさんの人たちが活動をしていて、西の湖に関するテキストやパンフレットが多く作られているのに、情報がバラバラで見つけにくい残念な状況にあることが報告された。



最後に、試作したヨシストローについて説明があった。飲み口や内部をきれいに磨き、ヨシの臭いを消すために重曹で煮込んだ他、一部には塗装を施すなど、様々な工夫と試行錯誤があったことについて説明した。今後、環境保護に理解があり発信力のあるカフェなどで、ヨシストローをお試し利用してもらう計画について説明があった。



## 【アドバイザー講評】

(横山教授)

- 事業のパーパス（目的）が曖昧であることの指摘があり、ヨシストローの普及が目的なのか、西の湖の情報発信がしたいのか、事業指標を明確にすべきである。

(山元氏)

- 短期間でヨシストロー試作品を作り上げた実行力について高く評価している。
- 事業目的について、西の湖の生物多様性に関するストーリーや、情報発信ツールとしてヨシストローを活用するストーリーなどがストレートに伝わるよう深めることで、論理的に整理ができる。
- 西の湖は地域資源活用塾において毎年テーマに取り上げられるなど、その注目度は非常に高いことから、西の湖に関する情報のオープンデータ化、アーカイブ化については、是非実施検討して欲しい。



### 3) 沖島チーム

沖島チームの発表者は、リーダー塚本さんが行なった。チームプラン検証のために行った、沖島でのヒアリング結果について報告があった。

①生ゴミの堆肥化、②コミュニティスペースづくり、③買物代行、④家事代行、⑤イベント開催などについて需要調査をしたところ、コミュニティスペースとイベント開催にニーズがあることが明らかになったこと。また、沖島モニタリングツアーに参加し、外から沖島に来る若者にどのようなニーズがあるのかについて、ディスカッションを行なったことについて発表があった。



メンターの深尾と田口から、今後どのように活動を進めていくか、沖島にコミュニティ拠点をつくるのかどうかなど一つ一つの組み立て方を模索中であること、やりたいことがたくさんある中で、週単位で仮説検証を繰り返し精力的に取り組んでいることなど、近況についての補足を行なった。



## 【アドバイザー講評】

(横山教授)

- 何を一番問題視しているのか、何を解決したいのかを明確にする必要があること。
- 自分自身の強みを意識して活動することで、もっとよい取り組みになるということ。

(山元氏)

- アクション量やスピード感、やりたいことをとにかくやってみるという姿勢が良い。
- ただし、形にしていくことができないと疲弊するだけになってしまう。
- 目的をもっと見定めて、収入に繋がる活動にしていけると、地域にとっても自身にとっても良くなる。
- 地域調査とマーケティング調査を混同してしまっているのではないか。前回DAY2でのレクチャーに照らし合わせると、地域調査とは沖島で今課題になっていることの調査であり、自分のやりたい活動へのマーケット（意向）調査の前に行う必要がある。
- 地域づくりと生業づくりの両立をめざす若者が気をつけるべき事業構想として、「ゲストハウス」「バー」「イベント開催」の3つがあり、企画する人が多い割りに成功事例が少ない代表例であり、これらに取り組むのであれば、ビジネス感覚を磨き、丁寧な事業設計が必要になる。



#### 4) BONDチーム（近江兄弟社高校生）・伝統×文具チーム（八幡商業高校生）

学校行事と資格試験のため、当日参加できなかった高校生2チームの取り組みについては、メンターの深尾が代理で発表をおこなった。

一つ目のBONDチームは、高校生のやりたいことを持続的に支援できる団体をつくりたいという事業ビジョンを掲げて活動に取り組んでいるということ。具体的には滋賀県立大学の留学生受入れ活動とコラボレーションして、近江八幡を学生がガイドするツアーを企画したり、着物に興味のある高校生のファッションショー開催を支援することを検討しているのが現状であるということ。

もう一つの伝統×文具チームでは、滋賀の伝統産業をもっと知ってもらいたい、若い人に『モノ』を大切にする考えをもってもらいたいというビジョンを掲げ、伝統産業と『モノ』のコラボレーションを企画していること。そして、今回の取り組みでは、地域の実践者やメーカーと連携による文房具の開発を計画しているということ。

#### 【アドバイザー講評・総評】

(山元氏)

- 高校生のパワフルな取り組み姿勢を評価された。今後成功体験をどのように積み上げていくかが大切であること、またそれを支援する仕組みが重要である。
- 文部科学省がバックアップしている「マイプロアワード」や、NPO法人ETICが主催している「MEKERS UNIVERSITY」の枠組みを利用してはどうか。また支援する側も仕組みづくりや手法を参考にしてみてもどうか。

(横山教授)

- 高校生から大人まで様々な所属の受講生が集まり、それぞれ取り組みを進められていることは素晴らしい。
- こうした取り組みを受け、行政や住民によるまちづくりや人づくりの仕組みをどのようにつくっていくべきか、支援体制はどうあるべきなのか、これからの課題として考えていかななくてはいけない。



### ◆グループワーク

午後のスタートはグループワークからはじまった。チーム毎に、今後どのように取り組みを進めていくかについて相談やアイデア出しが行われた。

統括ディレクターの山元さん、NPO法人おっちラボ代表理事の小俣さんからアドバイスをいただいた。また、入門コース受講生も加わり、各チームごとに活発な意見交換を行なった。



## ◆講義

DAY3の最後は、NPO法人おっちラボ代表理事の小俣健三郎さんによる講義を行なった。「過疎の町でソーシャルビジネス！チャレンジが“連鎖”していく町ー島根県雲南市」をテーマに、取り組み事例のご紹介を中心に講義をいただいた。



雲南市は島根県の東部に位置する人口約4万人のまち。雲南市では社会課題の解決に向け、大人、若者、子どもがそれぞれチャレンジすることのできる場をつくったということ。また、それぞれのチャレンジが連鎖するような仕組みづくりを進めているということ。

そして、チャレンジの場の一つが2011年から始まった「幸雲南塾」であるということ。地域課題解決へのチャレンジを支えるプラットフォームであり、ここで学んだ多くの卒業生が地域を元気にする、地域の未来をつくるローカルチャレンジを生み出しているということ。



現在、幸雲南塾の運営はおっちラボが担っているが、このおっちラボ、実は幸雲南塾の卒業生たちがつくったNPO法人であるということ。地域課題の解決にチャレンジするにあたり、チャレンジする人たちが繋がる仕組みはなくてはならないものであるということ。おっちラボは塾の運営だけでなく、塾生同士が繋がる、塾生と地域が繋がるなど、地域の架け橋として活動しているということ。





## (4) 成果報告会

### ■概要

名称	成果報告会
概要	塾を通じて磨いてきたアクションプランの発表と実践者の取り組み紹介を通じて、今後の活動に向けた決意を固めた。
日時	平成31年3月3日（日）13:30～17:00（13:00開場）
会場	ラ コリーナ近江八幡 本社 フロア2
参加者	58名
内容	<p>○第一部：成果報告会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・最終のアクションプランを発表</li><li>・専任講師と塾長からアドバイス</li></ul> <p>○第二部：ワークショップ「塾生プラン・パワーアップ会議」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・テーマ「まちを健康にする看護師・コミュニティーナースの活動について」</li><li>・講師：中澤 ちひろ（旧姓：歌田）（株式会社 コミュニティ ケア／訪問看護ステーション コミケア）</li></ul> <p>大学卒業後、神奈川県地域中核病院で3年勤務。地域医療の魅力に触れ、2013年より地域国際医療研修として広島県の病院で巡回診療や訪問看護、途上国での国際保健活動などを経験。2015年、その地域に暮らしているみんなの声を、医療や看護に反映させたいと思い、自ら訪問看護ステーションの立ち上げを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークショップ「塾生プラン・パワーアップ会議」</li></ul>

## ■広報

- 広報について、一般の方にも広く周知するために、チラシ（A4サイズ、両面カラー 500部）、ポスター（B2サイズ、片面カラー 50部）を作成し、市内主要施設や県内大学等への配架、市内事業者や地域団体への配布し周知活動を実施した。

## ○紙媒体

- ・ ポスター掲示（B2サイズ・片面カラー 50枚）

近江八幡の未来をつくる、かんがえる。

地域課題への挑戦者の成果報告。

未来づくりキャンパス

成果報告会

地域資源活用塾 第3期生

「塾生プラン・パワーアップ会議」  
同時開催

2019/3/3 SUN  
13:30-17:00 (13:00 OPEN)  
参加費 無料

会場：ラ コリーナ近江八幡 たねやグループ本社内 フロア2

地域の未来を考える、次への一歩となる報告会。

未来づくりキャンパスは、市民と学生が共に創造的・実践的に学ぶための人材育成プログラムです。

今年、5チームそれぞれ設定したテーマに取り組み、その集大成として成果報告会を開催します。

地域課題解決に向けた事業計画の策定を避けて、学びを実践へと進化させられる地域リーダーや社会起業家の育成をめざしています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

お問い合わせ 近江八幡市 総合政策部 政策推進課 www.omi8-campus.jp  
TEL 0748-36-5527 mail 010202@city.omi-hachiman.lg.jp

詳しくはWEBで！  
近江八幡未来づくりキャンパス

近江八幡市

QRコード

↑ 塾生募集案内ポスター

- チラシ配架 (A4サイズ・両面カラー 500枚)

近江八幡の  
未来をつくる、  
かんがえる。

地域課題への  
挑戦者の  
成果報告。

未来  
づくり  
キャンパス  
OMIHACHIMAN  
FUTURE MAKING CAMPUS

地域資源活用塾 第3期生

# 成果報告会

「塾生プラン・パワーアップ会議」  
同時開催

2019/3/3 SUN 参加費 無料  
13:30-17:00 (13:00 OPEN)  
会場：ラ コリーナ近江八幡 たねやグループ本社内 フロア 2

地域の未来を考える、次への一步となる報告会。

未来づくりキャンパスは、市民と学生が共に創造的・実践的に学ぶための人材育成プログラムです。

今年、5チームそれぞれ設定したテーマに取り組んでおり、その集大成として成果報告会を開催します。

地域課題解決に向けた事業計画の策定を通じて、学びを実践へと進化させられる地域リーダーや社会起業家の育成をめざしています。

Omihachiman City  
近江八幡市

↑ 塾生募集案内チラシ・おもて

**第1部** 13:30 - 15:30  
地域資源活用塾 成果報告会

今年度の地域資源活用塾では、5つのグループに分かれ全3回の講座を通じて、地域の社会的課題の解決につながる仮説の立案、地域の調査、お話し企画の実践に取り組んでまいりました。各グループの塾での活動について成果の報告を行います。



**第2部** 15:30 - 17:00  
ワークショップ  
「塾生プラン・パワーアップ会議」

まだまだ発展余地のある塾生のプランについて、地域の力を借りて参加者の全員でパワーアップを図るため、ワールドカフェ形式で意見交換を行います。

講義「まちを健康にする看護師・コミュニティナースの活動」

株式会社コミュニティケア 中澤 ちひろ  
訪問看護ステーション・コムケア



大学卒業後、神奈川県の中核病院で3年勤務。地域医療の魅力に触れ、2013年より地域国際医療研修として広島県の病院で巡回診療や訪問看護、途上国での国際保健活動などを経験。2015年、その地域に暮らしているみんなの声を、医療や看護に反映させたいと思い、自ら訪問看護ステーションの立ち上げを行う。



地域資源活用塾 第3期生  
**成果報告会**

2019  
3/3  
SUN

参加費  
無料

会場  
ラコリーナ近江八幡  
たねやグループ本社内フロア2

**近江八幡 未来づくりキャンパス「地域資源活用塾」とは？**

「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく近江八幡未来づくりキャンパス 地域資源活用塾は、近江八幡市の自然・文化・歴史といった地域資源を活用し、受け継ぎ、地域に根ざし自立した暮らしと営みをつくるため、市民が自らのこととしてまちの未来を考え、未来を担う世代を育むことを目的としています。

**Point 1** 安心して  
チャレンジできる

ひとりでは失敗を恐れて進めないことも、専門知識を持った講師や運営スタッフが一緒に伴走し支援します。

**Point 2** 小さく試しながら  
チャレンジをカタチにする

塾生の目標や動機を深掘りし、小さなお試し企画に挑戦し、塾生のチャレンジを磨いていきます。

**Point 3** 仲間や地域との  
つながりが生まれる

受講者や卒業生といった課題に取り組む仲間や、地域の関係者につながる機会をつくります。



参加希望の方は **お名前／所属／E-mail／TEL・FAX** をご記入の上、  
**ファックス・お電話・E-mail**にてお申し込みください。

締め切り **2・25 MON**

お申込み

近江八幡市 総合政策部 政策推進課 〒523-0893 滋賀県近江八幡市坂宮町 236  
TEL 0748-36-5527 FAX 0748-32-2695  
mail 010202@city.omihachiman.lg.jp

詳しくはWEBで！ 近江八幡未来づくりキャンパス



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための17の目標

↑ 塾生募集案内チラシ・うら

## ■詳細

平成31年3月3日（日）、ラ コリーナ近江八幡 たねやグループ本社内 フロア2にて、「地域資源活用塾（第3期）」の成果発表会を開催した。

## ◆成果発表

発表会当日、塾生は早めに会場に集合し直前の発表練習を実施した。



## ◆第1部：成果報告会

開会にあたり、地域資源活用塾の塾長である小西理市長の挨拶につづき、市役所担当課（政策推進課）より、塾の概要・経過報告を行った。



## ◆各チームからの発表&質疑応答

### ○子育て支援チーム（発表者：西村静恵さん）



#### 【発表内容】

- 当初は、“出産子育てを行うママが社会に戻っていけるサポートの充実した近江八幡”をビジョンとして掲げていたが、過去のエピソードを思い出す中で、“〇〇な親が安心して子育てができる近江八幡”というパパなど周囲を取り巻く環境をケアターゲットに取り入れたということ。
- 塾期間後半では、メンバーのアグレッシブな行動力で実際に“Dear.Mama&Papa”というイベントを開催し、多くのパパやママから好評があり、今後に繋がるものを得ることができたということ。

ママとパパの子育てに対する考え方のズレなどたくさんの例を出し、会場のパパママ世代の多くの共感を得ていた。



○伝統×日常チーム（発表者：安山結奈さん）



【発表内容】

- 将来は文房具のデザインに関わることを夢見て、滋賀をモチーフにした文房具づくりに取り組んだということ。
- 伝統文化や文房具づくりのデザインの現場訪問を行い、ヒアリングや見学を行った上で、問題構造やマイプロジェクト（マイプロ）のビジョンの整理を行っていったこと。
- 実際に、試作品作りや販売計画、収支の試算の作成まで進めたが、まずは学業に専念するため、一旦活動はストップするという決断をするということ。

発表の最後には、これからさらに自分自身の能力を磨き良いものを作れるようになりたいと、決意を語られた。



○さとうみ 西の湖チーム（発表者：山田恵美さん）



**【発表内容】**

- 西の湖活用のため、①西の湖全体を子ども達の学びの場にする事、②群生するヨシを活用したストロー製作を通じて西の湖や世界の海の環境を守ること、をビジョンに取り組まれたこと。
- すでに中間発表会の時点でヨシストローを制作していたが、調査の中で他にもたくさんの方々がアクションを起こしていることを知り、その中で自分たちに出来ること、やることを再度検討されたこと。
- 活動を通じて、現在すでに行われている「西の湖おはなしあそび」というイベントは参加者から好評を得ており、こちらを今後も継続していくために助成金の活用やイベント内容を変化させていくか検討中であるということ。



○学生団体BONDチーム（発表者：山本龍成さん）



**【発表内容】**

- 学生と地域をつなげたい（接着剤の役目）をコンセプトに掲げ取り組んだ。やりたいことがたくさんありすぎることから、まずはしっかりと組織化することに取り組んだということ。
- 「成功体験の蓄積がやってみようの原動力に繋がる」と考え、学生一人ひとりが自律して取り組める地域社会にするため、塾期間中たくさんの活動を実践したこと。
- 「着物でファッションショー」では、地域のスタイリストや着物屋の方から協力を得て、留学生や高校生、大学生を対象にまち散策を行ったが、参加者には喜ばれたものの、自分たちがやりたいことだけで走り抜けてしまい、イベントとしては満足度は低く終わってしまったということ。
- カンボジア自己発掘旅というイベントも実施し、実際に高校生5人で現地のソーシャルビジネスや社会貢献に触れるツアーを企画調整。自分たちの現在位置などを知る旅を行い、参加学生の自発的なやりたいが生み出されたり、一人一人がやりたいことに真摯に向き合え満足度は高く終わることが出来たということ。



## ○沖島チーム



- 沖島の少子高齢化や漁獲高の減少といった現状を知り、自分自身のやりたい島生活を送りつつ、島のためになろうと思い調査（延べ30回以上来島）を行ってきたということ。
- 調査の中で、島の1番の魅力は島の方々の優しさや暖かさであることに気づいたとこと。島外の方から「1名からでも泊まれるような宿がほしい」、島内の方から「お客さんが来られた際に利用できる場所がほしい」との意見を頂き、民泊がぴったりだと考え実行することになったこと。
- “島内外の接点になる場所に！”をコンセプトに、民泊以外にも島内外の方々が気軽に利用できるように準備していること。
- 民泊は4月オープン予定で、名前はKOKO（湖心）。湖心（こしん）という言葉には湖の真ん中という意味があり、琵琶湖の真ん中である沖島に人々が集まる場にするという意味が込められているということ。
- また、民泊を通して、その他にも沖島に貢献出来るような活動をしていく予定であること。



## ◆全体講評

各チームからの発表後は、出席いただいた委員の方々から講評していただいた。

### ○横山先生より



近江八幡市未来づくりキャンパス推進会議座長である滋賀大学の横山幸司先生からは、中間発表からの各チームの進歩についてご講評の後、アドバイスと激励をいただいた。

- 計画を作っていくにあたって、①需要があるのか、②誰のために、③何を目的にするのか、④自分たちのポジションはどこなのか、⑤何ができるのか、といった5つが大切であること。
- 中間発表時からそのあたりも意識できており、突き詰められていたということ。
- やりたいだけでなく、必要としている人とマッチングすることにより初めて計画に実現性・価値が生まれるということ。
- 塾で発表して終わりではない。ここは学び場であり、ここからいかにまちづくりに繋がっていきけるかが大切であるということ。
- 公と民が一緒になり、協働してまちをつくっていくのがこれからの形として必要だということ。
- 今までのような役所と市民の関係を取っ払い、お互い何ができるのか考え、まちづくりが決まっていくので、今後も全員で力を合わせ頑張っていく必要があるということ。

## ○山口先生より



京都大学の山口敬太先生には、各チームの努力により実現性の高いところまで落としこめていたとご講評いただいたのち、各チームへのフィードバックをいただいた。

- 子育て支援チーム
  - 素晴らしい着眼点。子育て支援でも男性の気恥ずかしさを無くすようなプログラムを考えてきたあたりに面白味があった。
  - 今回のイベント参加者が楽しみながら情報交換できたプログラムをさらに充実させていくと、参加したい方が増え、結果として子育てに関心のある人が増えていく。
  - インターネットを活用し、ユーモアのある発信などがあっても面白いかもしれない。
- 伝統×日常チーム
  - こちらも良いところに目を付けられている。現在は一つのグレードであり、今後利益率を上げるには最上級のグレードを目指してもらいたい。
  - 自分たちで作るだけではなく、一般の方々の中にもモノづくりが得意な方もおられるので、そのような方々ともマッチングしていくのも良い。
  - バリエーションが増え、お金が絡んでくるのでビジネスとしての展開が期待できる。
- さとうみ 西の湖チーム
  - 誰でも参加できる気軽さがあり、体験に着目されている点に素晴らしさを感じた。
  - 子どもの遊びや教育に着目されている点も良い。ヨシという自然素材を大きく扱えるのが面白く、軽いし危なくない。
  - 例えば、粘土と組み合わせて自分の体と同じくらいのおもちゃを作ったり、家ではできない体験をしていただいたりとか。
  - ヨシだからこそ出来ることをすることで、さらに体験プログラムが増えていったりす

るのでは。

- 学生団体BONDチーム

- 考え方がしっかりしている。プレゼンテーションが上手。
- 着物でのまち歩きなどとても良いアイデアだが、写真を見ていて少し寂しさを感じた。もっと幅広くたくさんの方々を巻き込んでいくと、話題性が増える。
- 巻き込み力はすでにもっているはずなので、より多くの方々に参加していただけるように、取り組みみをブランド化していけたらより一層良くなる。

- 沖島チーム

- すでに取り組んでいるので、このまま続けていってほしい。
- 食の問題。島外から訪れる方々は、地元の美味しいものを食べたい。島内に料理上手な方がおられれば、そちらの民家でご飯をいただけるような仕組みがあると面白い。
- そのような地域との関わりがあればさらに良い。

○塾長・小西理市長より



塾長である小西市長は、いずれのチームも全力投球で行われていることが印象的だったとして、各チームにそれぞれコメントを行なった。

- 子育て支援チーム
  - やる気共感がとてもリアル。女性は男性の共感を求めているという点に着目したのがとても当たっているのでは。産前産後の状況が現在のいじめ問題などに響いている。ぜひ、実現してほしい。
- 伝統×日常チーム
  - どのような商品が当たるかはわからない。遊びでやったものが当たることもある。もし当たらなかつたりしたとしても、めげずに続けていくのが大事。
  - 熱中しすぎないでやっていくことも大事。
- さとうみ 西の湖チーム
  - 現在は、びわ湖のヨシの質が悪い。西の湖は子どもたちの遊び場として非常に良い。自然体験もできる。西の湖が子どもたちの拠点になるようにやっていきたい。
  - 現在の近江八幡市には年間480万人の来訪者がいる。体験農園として来訪者に対してサービスを作っていけると非常に需要が高いと感じている。また、農業以外にも、畜産や漁業など、多彩な体験が提供できるのも近江八幡市の可能性だと感じている。
- 学生団体BONDチーム
  - どんどんやっていきましょう。やっていけば地域もついてくる。本気でやっていけば、周りの方々の共感も得られる。
- 沖島チーム
  - すでに形になっている。写真を見ていると、泊まりたくなる。都会から訪れる方々に料理を食してもらえる仕組みも良いかもしれない。
- コンシェルジュ機能もこれから必要。地域の方々との触れ合いをどのように作っていくのかを考えても良い。

◆修了証書授与式



講評後、小西市長より塾生代表への修了証書の授与を行った。  
その後、記念撮影をし、第一部は終了した。



## ◆第2部：ワークショップ「パワーアップ会議」



第2部の前半に、講師の株式会社コミュニティケア代表の中澤ちひろ（なかざわ・ちひろ）さんから活動事例紹介が行われた。

中澤さんは、神奈川県地域中核病院で3年間勤務後、地域国際医療研修として広島県の病院で巡回診療や訪問介護、途上国での国際保健活動などを経験し、現在は島根県雲南市で自ら訪問看護ステーションを立ち上げ運営を行われている。

今回は、自身が行われている「まちを健康にする看護師・コミュニティナースの活動」についてお話しいただいた。



### ○講演

現在活動されている島根県雲南市ではすでに様々な分野の方がアプローチをすでに行われておられたので、そこに看護分野として関り始めたのがきっかけということ。

現在の病院には、通院が大変、医療機関の脆弱化など、深刻な問題があるということ。身体的には帰れるのに、看取りの風土がなくなってきたり、家族に迷惑をかけるのと理由で家に帰りたくても帰りたくない方々もたくさんおられたりもするという事。



そのようなことを踏まえ、生活の中からその人らしく生きることを支えていこうと思い、地域の若者のチャレンジを応援する「幸雲南塾」に参加されたということ。

その中で、同じ志を持つ仲間と出会い、地域の方々のお話を聞き取ることで、社会は「訪問看護」だけでは足りないことが分かったということ。

塾の活動内では、収益にならないような地域との交流も行って来られ関係づくりをされてこられた。

そして、訪問看護の他に、「地域住民と一緒に健康なまちづくり」「若手地域医療ネットワークの構築」といった活動も含んだ「たくさんの幸せな瞬間をプロデュースする」を理念に訪問看護ステーションコミケアをオープンされた。

### ○起業後

3名から始められたチャレンジは、10名まで拡大し、提供できるサービスが広がった。

全国の訪問看護師の平均年齢は、48.5歳だが、平均年齢29歳と若い世代が集まってくる波がきている。

次世代に繋ぐ事業として、学校の選択授業で「地域のコミュニティケア講座」といったものをトライアルから始め、次年度からしっかりとお金が回る仕組みで正規の講座として開設された。

若い学生が訪れると、皆さん喜ばれ地域の方々からもとてもプラスになっている。

雲南省の取り組みがご自身でも知らない場所で同時多発的に広がり、さらに2名のコミュニティナースが地域に専従することになった。

取り組みを続けていると、年間100名程の視察も来られるようになった。

社会で需要があると考えられ、コミュニティナースカンパニーという新たな会社を設立。

コミュニティナースの育成とコミュニティナースを受け入れたい地域を支援されている。

今後は、全国のコミュニティナースが情報共有など行えるような展開をしていくとのこと。

### ○新たな出発

こうした活動の中で、ようやく自分たちが目指したい姿がみえてきた。

新たにビジョンと理念を掲げられ、病や障害があっても、子どもや大人、高齢者も、今後、誰もが地域の中で暮らしている社会に向けて、在宅ケア事業とコミュニティケア事業に取り組んでいくということ。



## ◆塾生プランパワーアップ会議

塾生と来場者が車座になり、「塾生プランパワーアップ会議」を開催した。

各グループの取り組み内容に対して、来場者からのコメントやアドバイス、どうすればよりよい取り組みになっていくかのディスカッションを行なった。

グループでのディスカッション終

了後、各グループでの議論の内容を全体で共有を行なった。その後、統括ディレクターの山元圭太さんから総括をいただき、閉会した。



## ○統括ディレクター・山元圭太氏からの総括

- 今後の近江八幡市の本塾のような取り組みに対して必要なことは「エコシステム（生態系）」を作っていくことである。
- これまでの塾の活動を通じて、アイデアという種しかもっていなかったものに、人・仲間が集って、おとしごとを実践することでいくつもの芽がうまれた。
- 塾生やOB・OGの方達も仰っていたが、出た芽が、ちゃんと木になり花が咲き、実を付けてそれがまた落ちて、次の種になって芽を付けていく、というような循環が起きているのか。それはまだ止まっているのが現状である。芽を出すところまでは、この3カ年の取り組みを通じて、近江八幡市という土壌でもできるということが実証できた。
- 次に何が必要かという、出た芽がちゃんと木になって育っていくこと。そして、その育った木に花が咲き、ここにこんな木があるよということを、周りの人たちが見に来くことで、次の新しい花が咲く。それがちゃんと実としての成果。社会や地域や近江八幡市というのが、本当に素敵な町になったよね、ということが多くの方と共有できることが実である。
- そうして育った実がつぎの新たな種になり、次世代が新たなチャレンジをはじめ。このような循環を作れるかどうかが大切である。
- このような循環をつくらうと思ったら何が必要か。つまり、芽が出たとしても、次にその芽がちゃんとすくすくと育っていくには、何が必要なのか。太陽も水も、或いは肥料も必要である。この水や肥料というのは、例えばお金もその一つであり、絶対必要なものである。
- でも太陽とか水とか肥料があればそれで育つかと言うと、実は一番に根本を支えるのに必要なもの、それが土であり土壌である。この土壌とは何かというと、近江八幡市の地域における関係性がちゃんと普段から耕されているかどうかということである。知ってる人が多いのか、顔見知りの人が多いのか、ちゃんと挨拶をかわしたり最近元気かというふうに話のできる人の数がどれだけ多いのか。それが、この地域の土壌の耕され具合ではないだろうか。
- ここが耕されていると、何かやりたいというようなまちづくりの種が、とても芽吹きやすくなり、どんどん繋がっていくことができる。
- 「そういえばあの知ってる?」「あの紹介しようか?気が合うと思うよ」という事がど

んどん起こっていく。このようなことが起きている先進地域と呼ばれる場合は、日本でもいくつも生まれている。その1つがコミケアの中澤さんもいる雲南市もそうであり、いくつかの地域でそういうことが起きている。

- では、近江八幡市はどうかというと、全く無いということではない。なぜなら、もし無かったら塾の報告会の場にあれだけの人が集まることはないのである。ただ、まだまだ耕せるはずであり、その可能性が近江八幡市にはまだまだあると感じている。
- だから、これで終わりではなくて、次に何が必要か。同じプログラムに取り組んでもいいが、もう一段進化が必要だと感じている。そのためには地域の土壌を耕すということ、また、芽として出てきた人たちが、ちゃんとすくすくと健全に育っていくような仕組みを考えていく必要がある。
- この仕組みをどのような形でやるのが良いのか。それは市役所の仕事とも言えるかもしれないが、それだけでは決してない。これを、市民が自ら求める仕組みを、自分たちなりに考えて作っていきこうというチャレンジが起こってもいいはずである。先進地域と呼ばれてる地域ではそれが起きている。市役所が凄いから関係性が耕されているというわけでもなく、市役所も凄いし市民も凄いし、プレイヤーとしてやるのも凄い。そのような「エコシステム」を作っていくプラットフォーマーと呼ばれる、プラットフォームを作る側の人間としても凄い人たちが現れてきている。
- では、近江八幡ではどのようなエコシステムやプラットフォームが必要なのかということは今後もまた一緒に考えていきたいと思う。今後、次年度以降どのような形になるのか、あるのかわからないが、実施する際には全く違う形に進化させ、皆さんと一緒に実現していく必要がある。そして、近江八幡市は地域の関係性が耕されている先進地域として、全国へ発信できるよう一緒に取り組んでいきたいと思う。



## ■コメントシートについて

当日、参加者にコメントシートを配布し、塾生の報告内容に対するコメントを集め、塾生へのフィードバックを行なった。

各チームへのコメントについては下記の通りである。

### ①子育て支援チーム

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
感動！！	わざわざここへ来て！東京いう企画もいいが、そういった若いママパパじじばばetc.人たちが集まりの場に入っていくと、思わぬ広がりにつながると思いました。一つ拠点を持つのもいいが、地域全体拠点として飛び出してくのもいいのでは？
核家族化が進む中、良い企画で子育てに必要なだと感じました。	空白
自身のエピソードをもとにパワフルな発表でした。特に母周囲の人にターゲットチェンジしたのは面白いと思った。	男は単純です。弱いです。そこにうまくその気にさせるような仕掛けを期待します。弱いところへのアプローチを！
「パパがキャザーを立てる日」→パパキャンプとても面白そうです！お父さんが主体で参加できるイベントは少ないので、是非一緒に参加したいです。	もっとそれぞれの立場の事をシェアリングする必要も感じました。お父さんが参加できる雰囲気づくり意識的人材を活かした広報が重要だと思います。
お母さんへの支援から周囲の支援に切り替えられたこと	キャンプでは男性も本気で楽しめ、新しい気づき（子育てだけでなく）あるものに。
私も妻に「やってる。出来てると思ってるやる。」とよく言われます。そこに注目されたのがとてもよかったです。	空白
自分の経験から出てきているアイデアでユニークだと思いました。	人材の活用（地域の子どもや若者）
・横のつながり ・大人の学び（気づき）を促す 「素晴らしい着眼点！文句なし」	笑いながら楽しんで情報交換。ユーモアがある。気恥ずかしさが消える。プログラムデザインがよい
自然を教材にすることで自然に学ぶ、自然を知る機会となる。声明を考えることにつながる。	空白
支援する人を支援するという視点。地域のリソースを活用している点	空白
自分の実体験に基づく思いの強さをロジカルにビジョンとアクションに置き換えているところ。	集客が広がる可能性があり、事業化の可能性を感じます。
空白	空白
理論的で大変良かった。女性の立場がすごく解り易く、男性から見ると受け入れるのが時間がかかるかな	体験してみてわかることが多いと思います。

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
母親からの視線だけでなく、母親の周りに着目している点が良いと思いました。	父親をきちんと集客できるのかどうかわからないと思いました。
空白	空白
とてもキャッチーなフレーズがいっぱいあってとても良かったと思います。記憶に残りました。	空白
ママのモヤモヤ解決を、パパのマインドを変えようという視点に至ったこと。講座をしてもなかなか人が集まらないので、体験型にしたところ。	空白
野外の学びには大賛成!!農業を継続させる機会を!!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに頑張っているパパの意見をもう少し入れてほしい（今後）</li> <li>・3世代のコラボイベントも!!</li> </ul>
子育てに「男子がどのようにかわるか」を応援するアプローチがおもしろい。	空白
お母さん空回りへと視点を広げられたことは、ご自分の経験に基づいた考えで、リアリティがあって良いなと思いました。	パパの次は是非おじいちゃんおばあちゃんへと広げられるとよいなと思いました。

## ②伝統×文具チーム

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
すんばらしい！	物がもつ背景。なぜそのものを使いたいのか。そのあたりがもっと周囲にプラスαで伝わるともっとそのものの価値が高まると思います！Fight!
将来の夢に向かって頑張ってください	空白
キット販売という現実的な方法を考えられたのはすごいと思った。次の目標も明確になり頑張してほしいところです。	がま口にした理由はありますか？一番好きな文具は何ですか？ぜひ好きなこと（文具）を追求してください。（僕も文具、大好きです）
地元初の文房具は、特にコクヨさんのものは人気もあるので、今後実現できそうだと感じました。	キットの販売はもちろん面白いのですが、作ってみよう！というWSも販売と同時に行っていただけたらと思いました。あと、色がきれいですし、若い世代がというのであれば、販路にinstagramもありだと思います。せっかく商品の後ろに歴史や地域という資産？があるので、それもカッコよく伝えられるのがいいですな。BASEとか、サイトによっても金額やクオリティも違うので、それも考えてみれらと思いました。
空白	近江麻については稲枝の大西新之助商店は本当にいいものをつくっておられるので、そこもコラボされては。
麻布と文房具をマッチさせるアイデアが良かった 後輩への還元は素晴らしいと思いました。	がま口の筆箱だけでなくもっといろいろな文具を考えてほしい
よく原価率など考えているなと感じました。自分自身のこれからの方向性もしっかり決めることができるといいと思いました。	これからの引継ぎなど工夫をできれば面白いなと思います。
いろんな可能性を試してプロトタイプを作り上げたこと キット販売のアイデア	①グレードを最上級をつくる求めやすい質・利益率を上げる ②+加工技能者（素人だけど）とのマッチング。
完成品でなくキット販売にしたところが良い。自分で作るプロセスが楽しめる。	空白
現場の調査をきちんと行っている。自分の可能な中でプランニングしている。	ミニマムでいいので、一度CFなどを利用して実践になるとPDCAサイクルを回せて行けたのではないかと思います。
制作キットにして販売するアイデアが素晴らしい！ 高校1年生でここまで考えて実行できる安山さん。ぜひ会計士も早く合格して・マイプロ再開してください！！	後輩の方、是非安山さんの思いを継いで製品化してください。応援してくれる事業者さんは沢山いると思います。
空白	空白

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
<p>高校生活の中でマイプロってすごいですね。自分自身の課題や目標がしっかりされていてすごく伝わりました。商品開発等も麻を使うアイデアいいと思いました。</p>	<p>近江商人をもっと出して企業さんとコラボがいいと思います。</p>
<p>現状の把握から、販売設定まで考案されていて、高校生だと思えない発表だと思い、感心しました。</p>	<p>具体的な販売方法</p>
<p>志や、取り組みも非常に良いと思う。</p>	<p>せっかく販売までの計画を立てられたので、数量限定で少量でも試販をして、ニーズの有無や今後の可能性について調べてみてはどうか。</p>
<p>ちゃんと計画を立てて売れるものを作っている点がいいと思いました。</p>	<p>空白</p>
<p>想いをカタチにする。それまでに至るまでの苦労や楽しみを知られたことは今後の人生でとてもプラスになると思います。</p>	<p>空白</p>
<p>コクヨ工場の岡田さんのような方とつながったのは商品化になりそう</p>	<p>商品化に向けたゴールを決めて、動いていただいて実績にして地域の企業を地域で応援したい。</p>
<p>高校1年生でびわこ文具に伝統の近江麻を使った文具というチャレンジする発想・勇気に応援したい。</p>	<p>近江商人再生プロジェクト、文化祭、市内販売の中でも販売出来たら。</p>
<p>自分の「好き」をカタチにするために、ファブリカ村やコクヨに実際に足を運び本物との出会いや現状を把握したうえで、計画を進められたことが良いなと思いました。</p>	<p>ぜひ、後輩にひきつがれ、形にされるとよいなと思います。</p>

### ③西の湖さとうみプロジェクトチーム

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
とりあえずお疲れ様でした！そしてこれからも!!	よしストローetc.なりわいにしながら継続して地域を良くしていくという志しを持ってされていたことが素晴らしいと思います。西の湖
今の時代、自然に触れる機会がないので、良い企画だと思います。	助成金などがなくても継続できるように
平成29年にも西の湖チームがありました。毎回テーマになる西の湖をうまくPRを含めてプランされていました。継続の観点をちゃんと持たれているのがすごいです。	他の西の湖テーマの活動とのコラボレーションはどうでしょうか？ALL西の湖projectの総取りまとめのような役割は？どうでしょうか。
ヨシストローめっちゃ期待しています！！ 芸術と組み合わせた”西の湖おはなしあそび”今回初めて知りましたが、次回あれば子どもと参加したいです。おもいきり芸術をさせる場が近隣になかったので、是非継続を！	いつか西の湖をモチーフにしたお話を子どもと作ってみてはいかがでしょうか？感性を磨ける場として、西の湖＝芸術というイメージを定着するように。西の湖の公園がもっと利用しやすくなるようお願いします。
ヨシストロー!アート2日間イベント最後に燃やす	参加したいです！
西の湖とアートを組み合わせたところが良かったです。	企業にも補助をお願いしたらどうですか
助成金への応募でこれからの展開が楽しみです	まっせや日吉などの近江八幡の企業の持つ技術やノウハウを活用しても良いと思いました。
だれでも参加できる手軽さ。体験教育に着目した点	子どもの遊び。 ・ねんどとヨシで自然素材のおもちゃ ・自分の体位のでかいおもちゃをつくる!! ポーネルンドよりよい。
ヨシの活用を切り拓くことが重要であり、試みとしては大変興味深い	空白
中間発表から良い形でビジョンの修正ができています。まさに地域資源の活用となっている	続けていける仕組みづくり。人材リソースの確保
継続を前提に力強くしていただいたのが素晴らしい	小中学生が小学校を巻き込んでさらに大きな地域活動の一部になりうると思いました。
すごくよかったと思う。西の湖は近江八幡にとって重要な場所だから。	空白
地域性を活かした西の湖。ヨシの豊かさを改めて自然の良さが分かった気がします。また、あらゆる可能性取り組みがあって良かったです。	今現在、古い古民家をヨシの良さで活用できるといいですね。西の湖の浄化にあたっての内容もあれば水の水質も良いと表現できるのではないかと思います。
西の湖でのイベントでアート関連のものは多くなかったなので、子どもでも楽しめそうだと思います。	ストローで収益が上がるのか
ぜひ継続して実施してってください。	空白
西の湖おはなしあそびとても楽しそうです！	空白



グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
協力団体との連携まで考えておられるところ 継続していくには？という視点で考えておられること	安土だけではなく、島学区などにも活動が広がるとよいと思います。
空白	空白
「西の湖おはなしあそび」8/19イベントの発想は面白い。アートを通じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作家であり、独自性のある発送のプランに期待したい</li> <li>・資金集めクラウドの発想に期待したい。</li> </ul>
いまあるものをよりよいものにするために、いろいろなアイデアをだされているのが良いなと思いました。 また、継続的な取り組みをえがき、ストーリー性のある”遊び”を考えらている事が面白いなと思いました。	西の湖は学校での環境学習の場としても活用しています。学校の学習との連動もできるとよいなと思います。

#### ④BONDチーム

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
おもしろい！！	空白
若者に夢のある企画で引き続きチャレンジしていただきたい。	空白
中身もちろんですが、発表者ヤマモトリユウセイさん、名前も覚えてしまいました。というより何をやっても山本さんのカラーで何でもできる。そんな気がします。失敗もネタになりそう。そこもすごい。	・暴走OK ・失敗OK ・but.自分が自分らしくなるること notOK! 突き抜けてほしい
これまでの雰囲気全部持っていくパワーにびっくりしました。自分達で行う実行力が飛びぬけていて、いろんな地域の大人とつながれる力があるんだろうなと思いました。	”学生”というのは、どんながくせいなのか、そこら辺をもう少し分けて動いてみても面白いし、もっとマニアックなこともできるかなと思いました。つなげた先の”自立”というのはどんなアクションをしたら？とか何かありますか？ 多くの人がともに動いてくれるようになった時、どう組織として動くのかも今から頭に入れつつ動いておられたらいいな～と思いました。
おもしろかった	世界にとって何が必要か。
カンボジアツアーがとても面白い！！	料金が高いので少しでも安くなるとよいと思います。 市民のニーズはどの国になるのでしょうか？
是非何か一緒にできればよいなと思いました。	コアコンセプトが気になります。
すごく考え方がしっかりしている。ロジック留学生との着物町歩きも面白い（もっと人数が増えると話題になる）より巻き込み力を	より多くの方が共感、参加できるとりくみ！へすごくいいとりくみになる
目が外、社会に向いているのが良い。	空白
自分で進めていくパワー・スピード感突き進んでいく力。ニーズを調べ、好きなこと、やりたいことが分かっている	団体の事業継承。ポスト山本さんをつくっていく活動も考えていくとよいと思います。頑張ってください！
・とにかくプレゼン上手 ・山本さんのような高校生がいる近江八幡市がうらやましいです。 ・その熱い思いをいつまでも大切に持ち続けてください	さらに重いと地域をつなげるため地域に入り込んで協働してみてもどうでしょう。
very interesting porject	空白
高校生らしいやりたいことを実現することは大事ですね。でもプレゼンがわかりやすく今後に期待したいと思います。教師の方もいい方なのでよかったです。	今後もそのパワーでやり続けていくことがもっとビックな人間になるのではないかと

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
自分たちで行動する力がついていてすでに自律で来ているのではないかなと思いました。プレゼン力が素晴らしかったです。	資本金をどのように集めていくのが気になりました。
空白	空白
すごく元気で頼もしい若者だなと思いました。高校生のため、自律を促すため、常に動いているパワーこれからも発揮してほしいです。	大学生になっても好きなことをしてください。そして他の好きなことをしている人ともかかわってください。
やる気を行動に移して実行しているところ	もっと地域の人とのコミュニケーションが必要だと思います。協力者を増やす。
言葉に思いがあり最高です！ イベント実行！さすがです！ 0円イベント！これありかも！！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒にやろう!!</li> <li>・地域の課題にはいろいろある聞き取りをSDGsからめてぜひ行動しよう。</li> </ul>
学生の着物ツアー特にカンボジアでの企画を高校生が企画した実績が素晴らしい	学生が考える計画を尊重して行動、このことが「自立」をつくっていくことに期待したい。
思いをカタチにするために、現実とのすり合わせをしながら、自分たちができることを実践されていることが素晴らしいなと思いました。やってみる→振り返る→次はどうする??このサイクルが良いです。	山本さんの続きをパワフルに！！さらに発展して、学校、市を巻き込んで、活動してくれることを願います。

## ⑤沖島チーム

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
よくぞUターンしてくれた！！	泊まるだけでなくせっかく沖島なのでここに泊まっての何かが（ききのがしたのか）あればより魅力高まる民泊になると思います。 それと、まずは沖島チームさんが沖島の住民さんとうちとける事からですね!!そこができてならOK
沖島の振興にもなり、企画が実現に向けて取り組まれている。	移動（交通）との食のプランを
もう実現する！すごいと思います。何もない沖島を、そしてメンバーの皆さんのPRをどんどんしてください。 □・ideaだけでなく実現、本当に素晴らしいです。	日本を通り越して、海外へPRを！旅なれた彼らならきっと、real Japanese沖島の良さを分かってくれ、そして、再発信してくれると思います。
必要だと思うことと、必要とされることは違うところをちゃんとリサーチされてからの動きだったので、より島民の方に寄り添ったプロジェクトになるんだろうと思いました。	民泊、海外向けにもぜひ発信してもらえたら嬉しいです。県内の人も泊まりたくなる内容を楽しみにしています。
ニーズとやれることがマッチしたものが見つかって良かった。	体験ツアー漁業とか、カヤックとかできたらいいですね。
島民のフリースペースの発想はとてもgoodである	琵琶湖でのレイクスportsや水遊びがあればもっとよいのでは
ぜひ1度体験させていただきたいと思いました	収益などもこれから気になります
いこうとなし、このまま続けてほしい。	食をどうするか。民家で晩御飯をいただきたい。
民泊に着眼したのが良い。沖島の観光振興の具体策につながる	空白
プランが実行に乗ろうとしている。島内でのビジネス創出が見えてきている。何回も来島しての関係構築	空白
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住み開き」というキーワードがキャッチーで解り易かったです。</li> <li>・そのコンセプトに沿ったイベントが継続していけるといいですね。</li> <li>・泊まりたくなりました。</li> </ul>	空白
nice to see that 沖島 is being highlighted.	空白
沖島は有人島で魅力のある場所であり、観光スポットにも工夫すれば活気良くなると思います。民泊が増えてれば活性化につながって琵琶湖の良さをもっと解ってもらえるのではないかな。	もっと行政をプッシュしてあげてください。カフェは良いかもですね。
民泊をすることで、街の活性化にもつながると思いました。	ヒアリングの調査対象者が6名では少し説得力に欠けると思いました。

グッドアイデア（良かったところ）	ブラッシュアップアイデア（もっとこうしたらいいなと思ったところ）
空白	空白
ちゃんと物件を探して、今後の進展が見えている点がすごいと思いました。	空白
沖島をよくしたいという思いが民泊をオープンするという形までつなげたところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島民とのコラボ</li> <li>・ 継続するための協力体制の検討</li> </ul>
実際民泊をオープンすること	聞き取りの人数もっとあれば本音があるかも
沖島での民泊（湖心 KOKO)の取り組みは素晴らしい。4月開業で10名の予約があることにビックリしました。	島の聞き取りをしているんなイベントなどをして沖島の観光に盛り上げてもらいたい。
島内外の人の声をしっかりと寄り添って、カタチにされたことが良いと思います。島内外の皆さんにとって、メリットがあるように考えられていることが好印象です	民泊を活用された今後の展開がまた楽しみです。

## ■統括ディレクター・山元圭太氏からの助言・指導

報告会終了後、統括ディレクターの山元圭太氏から各チームに対して今後の活動に関する助言・指導をいただいた。各チームへの助言・指導の概要は次のとおりである。

### ①子育て支援チーム

#### ○これまでの活動の振り返り

- ・ イベント通じて何を確かめて、今後の事業展開につなげていきたいのかについて何度も検討し、テストマーケティングとして何を成し遂げたいのか丁寧に作り上げられたことが素晴らしい。
- ・ 子育てに関する周辺環境の「意識の変化」を促していくことが肝心。そのための活動を継続的に実践していくことが大きな役割。
- ・ 対象は、お母さんの周りの人たち。お父さん、おじいさん、おばあさん、といった家族へと広がっている点が良いと思う。
- ・ どんな意識の変化が狙いかというと、子育てはお母さん1人のものではないということ。

#### ○子育てに関する意識の変化とは

- ・ 子育てに対する意識の違い、理解の深度について母親と同じくらい周りも持って欲しい。
- ・ 知識がないことから、夫婦の溝が発生してしまうことが原因なら、知識をちゃんと持ってもらうような活動も今後必要かもしれない。
- ・ そのままの意識のズレがあるのではないかという仮説がイベントを通じて各省に変わったので、今後はそれに対してどんなアプローチが必要か検証と実践を。

#### ○アプローチに関する一つの提案

- ・ 当事者たちが安心して意見交換できる場が必要なのではないだろうか。当事者と西村さんとの意見交換を加速させることで、答えがもっともって見えてくるのではないだろうか。
- ・ 苦しんだ経験をした人たち、これから経験する人たち、悩んでいる人たちとの対話から、答えの輪郭が見えてくるかもしれない。

#### ○イベントに関する集客の課題について

- ・ 講師の先生たち、セミナーの主旨や重要性について多くの人は感じ取ることは難しいが、当事者で課題を抱えている人たちなら聞きたいはずである。つまり、人が集まる企画と、価値がある企画は別物として今後も企画検討を進めてほしい。
- ・ 価値があるイベントとは、例えば参加する人たちにとって得する場かどうかということ。
- ・ 参加者に、消費者として参加だけでなく、生産者として一緒に価値を提供し合えるような場にできないかを考えることが大切。

#### ○まとめ

- ・ 活動や検討を進めていかれる中で、当事者（ママ）からその周辺の人たち（パパや家族）に対象が移行していったのはよかった。
- ・ 強い当事者意識から始めておられるので、今後も改善しながら実践していかれると思うし、そうできるような体制を作っていられることを願っている。

## ②伝統×日常チーム

### ○活動の振り返り

- 高校1年生でありながら、学業や専門試験の勉強などと並行し、ここまで活動できたことは大きな経験であり、今後自分の自信につながる活動ではないだろうか。
- 提案プランについて、煮詰めていけば実現性が高いプランであるので、また活動を再開された際には、ぜひプロトタイプ制作販売まで実施することでよりよい経験を得られるはずである。

### ○製品開発について

- 講評でも提案があったように、高校生たちが日常で手に入りやすいプロダクトだけでなく、プレゼントや自分へのご褒美として頑張って購入したくなるような、ハイグレードな製品を検討してみると、提案に幅が広がるのではないだろうか。
- お手頃価格の商品づくりから、少し高価格の商品づくりまで検討した結果、ビジネスの展開方法も異なるしニーズや広告方法や販路も異なってくるので、そのようなシミュレーションと試算表づくりを行うことも実践を通じた商業経理の学びにもつながることが期待できる。

### ○アイデアから形にするまで

- 学生のアイデアでも、情熱と行動力があれば周りも巻き込み、形になっていくプロセスを経験できたのではないだろうか。
- 商品開発に正解はないし、どんなものがヒットするかもわからない。しかし、いいものを作るためにはアイデアを大量に持って検証し、磨き続けることでいい品質のものが生まれる。そこで、次にこのような商品づくりやプロジェクトづくりを行う際には、ぜひ大人や同世代、多様な人たちとブレストを行い、多様なアイデアを作ることやアイデアを形作る際にどんどん周りの大人に頼っていくことでいいものを作ってほしい。

### ○まとめ

- チャレンジをするなかで自身のキャリア観を磨いていくことができたことが成果。
- 中高生がこういうチャレンジができる環境やプラットフォームを整えていくのがこの地域の大人の役割だと思う。

### ③西の湖ふるさとチーム

#### ○塾での活動に関する振り返り

- 西の湖活用に関する強い想いとアイデアをたくさん持っていた状態からスタートし、何度もチームでの打ち合わせや面談を重ね、最終的には継続的な活動を進めるために補助金の活用による資金調達活動に取り組むアクションを起こしたことがよかった。
- 結果として、チームとしてのミッションを補助金申請書の作成を通じて、組織として具体的に何を活動実施できるか情報の再整理ができ、現在足りていないことも明らかになってきたことは、動いたからこそ得られた結果の一つである。
- ただし、資金調達方法が、補助金に頼りきってしまっていることは今後継続的に活動していく上で検討が必要。

#### ○ヨシストローについて

- 非常に魅力的なプロダクトであり、製品化に向けて何が必要か、どんな工程やコストが必要か、今回進められた部分の整理をして共有することで、次活動される方へ引き継ぐことができ、きちんと積み上げていけるようにしてはどうか。
- 単にヨシの商品化だけが目的ではなかったはずなので、ヨシ刈りなどの直接ヨシの景観保全活動にも引き続き参画していくことで、次のアイデアが生まれた際に活動が加速するネットワークの構築にも繋がられるのではないだろうか。

#### ○まとめ

- 塾のプロセスを通じて、一周回って上がってきた。より深みと広がりをもってイベントに取り組んでいただきたい。
- 市民参加の第一歩として良いコンテンツだと思うので、イベント参加後のさらなる機会の設計を検討されると良いと思う。



#### ④BONDチーム

##### ○活動の振り返り

- BONDというグループは、リーダーの山本くん以外にも個性的なメンバーがいることから、各自のマイプロの活動に関しても一度きちんと整理した上で、今後の活動を積み上げていくことが大切。
- 今後の進め方について、BONDというグループが支援者として3～5つのロールモデルとなる高校生マイプロの成功事例を作ることが大切。しっかりとプロジェクトが形にならない限りは、学校や地域団体へ影響力があるものにはならない。まずはいいマイプロをしっかりと作ることに注力し、成果を上げてからより良い活動へ展開することに期待。

##### ○すごいマイプロとは

- 高校生が心底取り組みたいもので、地域側もそれに取り組んで欲しいもので、地域にちゃんと貢献できる成果が出せているかの3つが大切。
- 単に高校生がやりたいことを突き通すのは、暴走族と同じである。しかし、ときには暴走するくらいの熱量と行動力も新しいことに取り組むためには必要である。
- 改めて、本当にやりたいこと、BONDとして誇れるプロジェクトは何個あるのかを真剣に検討することが必要。

##### ○着物のイベントの振り返り

- 満足しているのに、なぜかやりきった感がなかったのか。それは、やりたいことをやっただけだからであることが明らかになったのはいいこと。そして、地域のニーズも答えないと満足度が上がらないことや、ビジネスにおけるマーケティングと同じ。お客さん（=困っている人）のニーズと、提供するモノやサービスがハマるかどうかが肝心。
- 改めて、着物のプロジェクトは、どんな要素があればより良くなったのかを考えてはどうか。

##### ○今後について

- これまで実践した一つ一つのプロジェクトを、より良いものになるためにはどうすべきか、チーム内での振り返りを継続して実施してはどうか。
- 一つ一つのプロジェクトの質を上げていくことが、新聞社やメディアに取り上げられるし、PTAなど親へのインパクトも高いのではないか。
- これまでの塾の活動を通じて進んできた、試行錯誤のプロセス自体が重要。今回の塾の発表でまとめた内容を活かし、次につなげていってほしい。

##### ○まとめ

- 粗くてもいいのでそのエネルギーや情熱のまま突き進むことを期待している。
- その中で少しずつでいいので、自分たちだけでやろうとせずに適切に大人の力を利用する狡猾さも身につけていくとできることの幅がいっきに広がると思う。

## ⑤沖島チーム

### ○活動の振り返り

- オープン後の展開方法について、発表時まで一気に内容が詰められたことはすごい。
- これまでの活動を通じて月に3回以上通っていることや、人脈も使っているいろんなことを試していることも素晴らしいので、今後も継続して取り組んでいただきたい。
- 今回の発表でまとめた資料を活かし、今後も自分の支援者を増やしていくような場でのプレゼンにぜひ取り組んでいただきたい。

### ○今後の課題について

- 物件の所有と管理に関する権利関係や、営業許可等の手続きをきちんと抑えられているか、役所とも協議をしながら進められるといいのではないか。
- 資金計画についても、イニシャルコストをできるだけ抑えられているが、今後活動を続けていった際に発生するラーニングコストも予測し、収支計画を検討していただきたい。

### ○まとめ

- これからも真摯に愚直に沖島の方々の中に入り、向き合い続けてもらえたら良いと思う。
- 自身の「やりたい」だけでなく、地域社会を知った上での「やらねば」という思いからでてくる活動・事業ができるとさらにパワフルになると思う。

### 3. グループワーク・個別支援

---

#### (1) グループワーク・個別支援の方法について

##### ○グループワークの進め方

- 実践コースにおいて、受講生（チーム）の個別活動支援としてグループワークを実施した。
- グループワークは概ね隔週開催とし、詳細スケジュールは受講生（チーム）と調整し進めた。
- グループワークでは、アクションプランの作成だけではなく、講座期間中にプランに沿った活動（お試しごと）の実施を課し、プランの検証を行い、最終報告会ではその成果を踏まえアクションプランの磨き上げを行なった。
- グループワーク会場については、受講生（チーム）の利便性（交通手段等）に最大限配慮し、個別に調整を行った。

##### ○「未来づくりキャンパスラボ」の運営

- 受講生（チーム）ごとに担当メンターを設け、主に以下内容の伴走支援に取り組んだ。
  - ①グループワーク活動支援（スケジュール調整、受講生同士の連絡調整等含む）
  - ②受講生（チーム）活動に関する進捗管理
  - ③受講生の悩みごとの相談、情報整理支援など、適切な助言・指導
- 受講生のテーマや活動の進捗に応じて専門アドバイザーを招聘し、助言・指導を行った。また、専門アドバイザーは受講生（チーム）の活動内容や進捗により適切に配置し、概ね各チーム平均3回程度実施した。
- 受講生（チーム）の活動に必要と認められた際には、地域活動団体等との連携を仲介し、交渉や連絡調整を行なった。
- グループワークにおいて、必要に応じて社会起業実践者やNPO法人などへの現地見学を実施した。
- 上記の他、状況に応じて必要と認められる中間支援的役割を随時発揮した。

## (2) 塾生の募集について

### ○募集対象

- 募集対象者は、「近江八幡市における地域の社会的課題の解決に熱意を持って取り組む意欲のある者」とした。
- 参加費は無料とし、塾生の定員は20名程度で募集した。
- 塾生は、取り組むテーマごとに1~5名程度でチームを編成し、資金調達・収支計画や経営戦略、マーケティング戦略についても可能な限り検証し、実践的で持続的な事業計画の策定を目指す人を対象とした。

### ○募集期間

8月21日(月)～9月11日(月)

### ○募集結果

実践コース12名、入門コース13名、合計25名の塾生の申し込みがあった。

**第3期  
塾生大募集**

近江八幡未来づくりキャンパス  
『地域資源活用塾』

受講料  
無料

**まちづくり活動を活性化させたい方  
ソーシャルビジネスに取り組みたい方**

(ソーシャルビジネス ⇒ 社会的課題に対して、ビジネスの手法で解決する)

**入門コース**

内容

- 講座受講
- 中間・成果発表会

**定員 15名**

対象者

- ソーシャルビジネスに関心のある方

**実践コース**

内容

- 講座受講
- グループワーク
- 中間・成果発表会

**定員 15名**

対象者

- 社会起業に挑戦したい方
- まちづくり協議会などの地域活動団体等に所属し、地域の課題解決に意欲のある方

(注) 参加費は別途ご負担ください

▶ 実践コースでは、取り組みたいテーマや事業構想別にチームを構成します(1名チーム可)

▶ チームにはメンターを配置し、伴走者としてチームのフォローを行います

▶ チームのテーマや進捗に応じて、専門アドバイザーを募集、アドバイスを受けます

**スケジュール**

DAY 1	9/29 (土)	開校式・オリエンテーション	近江大学 経済学部経済学科 教授 中野 桂 氏
DAY 2	10/13 (土)	アクションプラン作成	合同会社豊登七 代表 山元 圭太 氏
DAY 3	11/17 (土)	中間報告会	NPO法人おちろラボ 専務局長 小俣 健二 郎 氏
DAY 4	3/3 (日)	成果報告会	株式会社コミュニティケア 中澤 ちひろ 氏

※カリキュラム、講師プロフィールは表裏面参照ください

**募集期間** 平成30年8月24日(金)～平成30年9月14日(金)

**申込方法** 参加申込書に必要事項記載のうえ、持参、郵送、メールのいずれかにてご提出ください

参加申込書は、近江八幡市ホームページからダウンロードください

※応募の定数を超過した場合は、抽籤等によって塾生を決定させていただきます。

(持参・郵送) 〒523-8501 近江八幡市桜宮町236番地  
近江八幡市役所 総合政策部 政策推進課  
(メール) 010202@city.omihachiman.lg.jp

近江八幡市ホームページ

参加申込書はこちらから

未来づくりキャンパス周用ホームページ

過去の開催の様子をご覧ください

**地域資源活用塾**

地域課題の解決につながる生業づくりや、社会起業にチャレンジする人たちを応援します。

**1** 安心して  
チャレンジできる

専門知識を持った講師や運営スタッフが伴走し支援します。

**2** 仲間や地域との  
つながりが生まれる

同じようにチャレンジする仲間や、地域の関係者となることができる機会をつくり出します。

**3** 思いを形にする  
お手伝いをします

やりたいことがあったが、一歩が踏み出せなかった。そんな方をお手伝いしています。

**プログラム**

DAY 1	9/29 (土)	・オリエンテーション ・講義「地域を豊かにするソーシャルビジネス」 会場：近江八幡市立公民館 (講師 近江大学経済学部 教授 中野 桂 氏)
DAY 2	10/13 (土)	・講義「ソーシャルビジネスのアクションプランをつくる」 ・ワークショップ 会場：近江八幡市立公民館 (講師 合同会社豊登七 代表 山元 圭太 氏) (実践コース グループワーク (3回程度))
DAY 3	11/17 (土)	・中間報告会 ・講義「事業構想の取組と近江八幡市におけるソーシャルビジネスの展開」 ・ワークショップ 会場：近江八幡市総合福祉センター (2階多目的室) (講師 NPO法人おちろラボ 専務局長 小俣 健二 郎 氏) (実践コース グループワーク (7回程度))
DAY 4	3/3 (日)	・成果報告会 (一般公開) ・講義「まちを健康にする看護師・コミュニティナーズの活動」 会場：近江八幡市総合福祉センター (2階多目的室) (講師 株式会社コミュニティケア 中澤 ちひろ 氏) ・塾生パワーアップ会議

**統括ディレクター**

合同会社豊登七 代表  
**山元 圭太 氏**

近江県出身。2009年4月、27歳の時にプロジェクトに入社。日本企業で勤務し、フットドレインシステム開発事業を推進。2014年9月に独立し、現在の「ソーシャルビジネス」やNPOのコンサルティング、支援を行っています。

DAY 2 講師として、各回ワークショップなど塾生のテーマがサポートを行います

**講師紹介**

近江大学 経済学部経済学科 教授  
**中野 桂 氏**

東京都出身。カナダに10年以上の間に、医療職で20年近く暮らす。その間と同時期に起業家精神であるが、環境、まちづくり、農業、教育などその研究対象は幅広くにある。

NPO法人おちろラボ 専務局長  
**小俣 健二 郎 氏**

鳥取県出身で2011年に上京した。「社会起業」を「おちろ」をその理念として事業を立ち上げたNPO法人であり、卒業生の運営にも関わっている。若者のためのチャレンジ支援に関心しています。2015年、おちろの成長に共感し、専任で参加し、現在は専務局長。また「おちろ」のアドバイザーとして活動しています。

株式会社コミュニティケア  
**中澤 ちひろ 氏**

大学卒業後、特別自治体の地域中核病院で3年勤務。地域医療の魅力を伝わり、2013年より福祉系民間企業に転職して、事業開発に携わり、近江八幡市や近江大学との連携や協働を推進。2015年、その経験を活かして、おちろの専務局長に就任。自ら経営者としての経験を、おちろの塾生に伝授し、成長を支援しています。

お問い合わせはこちら  
近江八幡市役所 総合政策部 政策推進課

TEL 0748-36-5527  
Mail 010202@city.omihachiman.lg.jp

↑ 塾生募集案内チラシ

## ①実践コース12名

お名前	所属	①あなたが解決したいと考えている、または関心のある地域の課題は何ですか	②左記の課題を解決するために取り組んでみたいこと、現在取り組んでいることがあれば、ご記入ください
北岡 くみ子	地域おこし協力隊	高齢化が進み、旧市街地が空洞化している。空き町家が朽ち、新しい住宅や駐車場になっている。	空き家の流通、貸す人を増やし、店舗経営を小さく始めたい人たちのための仕組みを作りたい。
佐橋 果満太	近江兄弟社 高等学校 3年生	高校生の活躍の場が少なく発言権がない。社会の中で意見を出し、社会を構築していきたい。高校生の社会進出へのサポートやシステムが全くない。	世界中の高校生が自分達の活動をアピールする場の提供。活動を広げていくための高校生同士がつながれる世界のネットワーク作り。アイデアを持つ高校生の後押し。
谷川 陸	京都大学 工学研究科	・空き家・空き地の増加による歴史的なまちなみの景観破壊 ・高齢化などによる地域コミュニティの衰退	「U-30 安寧のまちづくりアイデアコンペ」最優秀賞受賞をきっかけに、まちで活躍する人々と関わりをもち、空き家・空き地活用と一緒に考えている。具体的なビジネスモデルを構想に入れた、近江八幡の歴史的価値を活かした提案がしたい。
塚本 千翔	フリーター	沖島で現在深刻な問題となっている、少子高齢化・人口減少・若者不足が原因で起きている漁師の後継者不足や生活基盤となる若者の不足、高齢者を含む全員参加で行われているゴミ出し問題	現在、沖島町離島復興推進協議会の方々とは何が出来るかなど話し合わせていただいたり、先日行われた沖島の魅力発掘ツアーにも参加。意見交換や情報収集を行っております。
林 真澄	絵本作家	西の湖を舞台にして子どもを対象に絵本、環境、歴史、いきものをテーマにしたワークショップを毎年開催したい。地元の人に西の湖の良さを再発見してもらい、子どもたちにはふるさとの魅力を伝えられる人材に育つような体験をしてほしい。今年まちづくり協議会のバックアップにより第一回目のワークショップを開催できたが、いずれ経済的にも自立したい。	ヨシでできる商売を提案したい。ヨシ刈りをして西の湖の多様ないきもの生息環境を持続させたい。
古林 澄花	近江兄弟社 高等学校 3年生	高校生の活躍の場が少なく発言権がない。社会の中で意見を出し、社会を構築していきたい。高校生の社会進出へのサポートやシステムが全くない。	世界中の高校生が自分達の活動をアピールする場の提供。活動を広げていくための高校生同士がつながれる世界のネットワーク作り。アイデアを持つ高校生の後押し。
堀 豊	(一社) お結び 代表	近江八幡に少ないシェアオフィスの設置、SDGsを地域で取り組める拠点を作り、全ての方がSDGsを通して日々の生活をする！感心のある地域の課題としては、近江八幡の観光をもっと世界の人に向けて発信をすべき、日本で暮らす外国人や英語を話せる日本人と地域が連携してローカルな部分の案内と古民家や空家を使った長期滞在出来る環境を整えるべき！	SDGsのカードゲームを主催「SDGsって何？」をカードゲームから案内し参加者の方でコミュニティを作り情報交換、活動する人たちの支援、勉強会の開催などを計画。拠点については、地元企業のアインズさん所有の物件をお借りして、地域に根付いた空間になるよう準備を始めました。
安山 結奈	八幡商業高校 1年生	滋賀県の伝統が若い人に知られていない	近江麻の染物を使って文房具をつくってみたい。若い人に滋賀県の伝統を知れる機会をつくりたい。

お名前	所属	①あなたが解決したいと考えている、または関心のある地域の課題は何ですか	②左記の課題を解決するために取り組んでみたいこと、現在取り組んでいることがあれば、ご記入ください
山田 恵美	主婦	核家族化が進み、世代交流が少なくなり、地域でのつながりやコミュニケーションが希薄になってきている 女性も保育所に子どもを預けて共働きで働く世帯が増え、忙しさの中で地域行事への参加が減り、近所との関係も薄れてきている（隣に誰が住んでいるか分からない）	老若男女誰もが集える場を作る。特に、働いていて忙しい子育て中のパパ、ママが集まり交流できるような場所を作りたい
山本 龍成	近江兄弟社 高等学校 3 年生	高校生の活躍の場が少なく発言権がない。 社会の中で意見を出し、社会を構築していきたい。 高校生の社会進出へのサポートやシステムが全くない。	世界中の高校生が自分達の活動をアピールする場の提供。活動を広げていくための高校生同士がつながれる世界のネットワーク作り。 アイデアを持つ高校生の後押し。
吉武 駿	京都大学 工学研究科	・空き家・空き地の増加による歴史的なまちなみの景観破壊 ・高齢化などによる地域コミュニティの衰退	「U-30 安寧のまちづくりアイデアコンペ」最優秀賞受賞をきっかけに、まちで活躍する人々と関わりをもち、空き家・空き地活用を一緒に考えている。 具体的なビジネスモデルを構想に入れた、近江八幡の歴史的価値を活かした提案がしたい。
西村 静恵	ひとつぶて んとう園 代表	子育て、出産、教育など行政にも相談、対応窓口はあるものの、それらは横のつながりを感じられるものではない。	官民連携した包括的にサポートできる体制づくりに取り組みたい。

## ②入門コース13名

お名前	所属	①あなたが解決したいと考えている、または関心のある地域の課題は何ですか	②左記の課題を解決するために取り組んでみたいこと、現在取り組んでいることがあれば、ご記入ください
東 有希	市役所 ま ちづくり支 援課		
岡田 佳子	市役所 生 涯学習課		
小原 弘己	市役所 シ ステム管理 課	地元集落の集落営農について、農事組合法人を立ち上げ取り組んでいる。黒字ではあるが国県からの補助金に大きく依存しており制度改正等のリスクが大きい。また、現在の担い手が会社を退職した団塊の世代であり、10年後の組織の維持が可能かなど、持続可能な組織となっておらず事業継承の面で問題がある。	全住民にアンケートを配布し、就業可能な層、関心のある層を洗い出すと共に、集落内にできた新興住宅地の住民に対してもお手伝いいただける可能性があるかどうか調査している。 農業閑散期（12月～2月）は作業がほぼないため、副業を持ちながら農業で生活していくというモデルを確立への模索を行いたいと考えている。
加納 隆	岡山区ま ちづくり協 議会 会長		
加納 誠	市役所 秘 書広報課		
木村 雄喜	市役所 環 境課	・自治会未加入者のごみ捨て場問題 ・高齢者のごみ出しが困難である場合	

お名前	所属	①あなたが解決したいと考えている、または関心のある地域の課題は何ですか	②左記の課題を解決するために取り組んでみたいこと、現在取り組んでいることがあれば、ご記入ください
桐原 正昭	浅小井川下り有志の会	町内に、毎月7月の祇園祭りに巡航する曳山と、昔（江戸時代～昭和30年代）に地元特産品だったイ草製品（畳表）の歴史を展示した資料館「曳山とイ草の館」（有料）があるが、訪れる観光客が少ないので、町の重荷となっている。	そこで、町の西側を流れる1級河川蛇砂川での川下りや浅小井城址、安土城時代の織田信長関連遺跡等々と組み合わせた、観光化を図っていきたい。
畠本 拓哉	市役所 長寿福祉課		
仲井 清	北里学区まちづくり協議会 事務局長		
中村 真記	第2期生		
橋本 晴美	安土学区まちづくり協議会		
廣谷 大地	市役所 商工労政課		
福井 崇人	近江八幡市総合医療センター 経営企画課	市民主体の地域づくり	塾生（第2期）として「町家の活用」に取り組みました。今回は入門コースを通して、上記の課題に対するアプローチ手法をもう一度学びなおすこと、また、地域の方との交流を深めたいと思い、応募しました。

### (3) 各グループの活動について

チームの組成に関しては、DAY1終了時に提示した課題（ビジョンシート）をもとに、事務局で大まかなチーム編成案を作成し、DAY2での課題発表時に塾生が案をもとに各々が所属するチームを選択する形をとった。

各チーム別の活動概要は次のとおりである。

#### ①子育て支援チーム

1) チーム名：子育て支援チーム

2) メンバー：西村静恵・吉武駿・（北岡くみ子）

3) 取り組み内容

（目的）

- 産前産後の子育てに悩む親の不安を解消する居場所づくりを行う。
- 特に、父親や周囲の人々に正しい知識を身に付けてもらうことで、母親の負担を軽減する

（活動プラン）

- 空き家を活用したフリースクールの新規開設を計画。
- 子ども達が立ち寄れる空間であるだけでなく、産前産後の子育て親が集まり、悩みを共有したり、情報を得ることで負担を軽減できる場とする。
- 八幡山への山登りなど近江八幡の自然を活かし、子ども達がのびのび成長できるプログラムを提供する。また、お菓子を食べながら読み聞かせができるなど、図書館等の場所ではできない自然な親子のふれあいを可能とする。

（お試しごと）

- 2/10（日）、2/11（月・祝）の2日間にわたり子育てイベントを開催。場所は八幡堀近くのデイサービスセンター「おほりばた」。
- 助産師、看護師（共に大学教授）を招き、正しい産前産後ケアについて参加者にレクチャー。
- 出産を控えた妊婦、産後の子育て中の母親を中心として、その父親と子どもたちが参加。産前産後にどのようなことで悩んだか、妊娠をした時の気持ちはどうだったか、悩みを相談する人はいたかなど、自身の経験を参加者で共有。お互いに意見交換を行うことで、参加者のケアを行うと共に、今後の活動のヒントを得る機会とした。







# Dear. Mama & Papa

ママ、子育てって大変ですよね。  
誰に教わるでもなく、日々わからないことだらけ。

パパ、ママのことを助けてあげたい。でもどうしたらいいかわからない。  
むしろママをイラつかせてしまうことも。

妊婦さん、生まれたての赤ちゃんのママ・パパ  
みんなで手をつないでご参加ください。ママひとりで頑張らないで。

看護師でイクメン講師の古山さん・日隈さんと一緒に過ごす日です。

私たちは、産前・産後ケアの一歩として  
周りの意識から変えていきたい

from ひとつぶてんとう園

2月 10日 [日] 11日 [月・祝]

時間：11:00 - 14:00  
場所：おほりばた  
近江八幡市孫平治 1-13-3  
\*駐車場有  
参加費用：大人 500 円  
保険代お子様 300 円 / 人 (希望者)

佛光大学 保健技術部 看護学科 教授  
**日隈 ふみ子先生**  
「本来のお産」や「助産師本来の役割」の追求、開業助産師からの「智と技」の継承の機会のために、助産師の立場から、お産や助産について考えるカンファレンスを2004年より2年に1回開催している。日本看護協会・近畿地区助産職能委員。

国際医療福祉大学 成田看護学部 助教  
**古山 陽一先生**  
男性の看護職ならではの経験と専門知識や技術を活かした父親支援NPOを設立し、全国にて講演・研修等を行っている。第4回澤柳記念奨励賞受賞。家庭では、2児の子育て真っ最中。出生時には、「育休」も取得した。子育てしているというよりは、親として育てられている。

11:00 \*子どもたちの活動開始 (～14時) 10日  
山で遊ぶ or おほりばたで絵本を読む  
子どもたちはおむすび・水筒持参  
\*助産師さん交流・相談会 (～14時)  
12:00 古山陽一さんお話し会  
テーマ「お父さんの『ケアする力』を高める！」  
14:00 解散

11:00 \*子どもたちの活動開始 (～14時) 11日  
山で遊ぶ or おほりばたで絵本を読む  
子どもたちはおむすび・水筒持参  
\*助産師さん交流・相談会 (～14時)  
12:00 日隈ふみ子さんお話し会  
テーマ「妊娠、出産に伴う女性の生理的・からだの変化」  
14:00 解散

[お申込み]	[連絡先]	[後援]
1. お名前 2. 参加日 3. 参加人数	代表：にしむらしずえ	出産ケア政策会議
4. お子様お預けの有無・年齢	TEL：090-8208-0423	
5. 保険加入の有無	E-mail：comebaby675@gmail.com	

↑お試しごとの告知チラシ

#### 4) メンターの主な役割

- 当初出ていたビジョンについて対話を重ねる中で、目的の一つである産前産後の母親の負担を減らす必要性を再認識し、母親のみをターゲットとするのではなく母親を取り巻く環境に目を向けたお試しごと（イベント）の設計を行った。
- 母親を取り巻く環境として一番関わることの多い父親をターゲットに、母親・父親各々の子育てに関する知識や技術・考え方の相違などを理解するためにイベントを開催した。
- イベントを開催したことで、父親を取り込むための手立てを明確化し、フリースクールでの活動につなげることが出来た。
- その他の活動として、市内にある子育て団体の代表者を紹介したことで、市内にたくさんある子育て団体とのつながりをつくるきっかけが出来た。

#### 5) 専門アドバイザー

- 古山陽一（国際医療福祉大学・助教／看護学、基礎看護学、社会看護学）：産前産後ケアに関する相談。
- 日隈ふみ子（佛教大学・教授／母性看護学、助産学）：産前産後ケアに関する相談。
- 秋村かよ子（Mom's fun 主宰）：市内での子育て支援活動に関する相談。

#### 6) 主なチーム活動

日付	活動	内容
2018/10/26	メンターと面談	DAY2の共有、アクションプランの作成
2018/11/07	ヒアリング	市役所 子ども支援課 担当者に子育て支援の現状や取り組みについて聞き取り
2018/11/15	オンライン面談	中間発表資料作成打ち合わせ
2018/11/29	メンターと面談	プレ開催に向けた打ち合わせ（開催内容・ターゲット・目標）
2018/12/06	専門アドバイザーへ面談 （専門アドバイザー：秋村かよ子氏）	近江八幡市で活動されている子育て団体の代表 秋村氏に子育て団体の現状などに関するヒアリングと活動相談
2018/12/12	メンターと面談	プレ開催に向けた打ち合わせ（開催内容・ターゲット・目標）
2019/01/17	メンターと面談	プレ開催に向けた打ち合わせ（プレス、集客について）
2019/01/25	統括ディレクターとメンターと面談	経過報告やプレ開催、最終発表に向けた打ち合わせ
2019/01/25	メンターと面談	プレ開催の最終調整
2019/02/10	プレイベント開催① （専門アドバイザー：古山陽一氏）	古山陽一氏を迎えたパパの意識変革のイベントとレクチャー
2019/02/11	プレイベント開催② （専門アドバイザー：日隈ふみ子氏）	日隈ふみ子氏を迎えて子育てに関するレクチャー
2019/02/14	メンターと面談	プレ開催の振り返り、最終発表に向けた打ち合わせ
2019/02/26	メンターと面談	最終発表に向けた打ち合わせ
2019/03/01	メンターと面談	プレゼン練習

## ②伝統×日常チーム

1) チーム名：伝統×日常チーム

2) メンバー：安山 結奈

3) 取り組み内容

(目的)

- 滋賀県の伝統素材（産業）の活用
- 若者をターゲットの中心とした、ものを長く大切に使う意識の醸成。

(活動プラン)

- 近江麻を利用した文具の開発を企画。
- 当面、作成した文具は協力者を得て、販売スペースの一角に置かせてもらうことを計画。
- インターネット販売による、作成キットの販売も検討中。キット販売として購入者自らに作成してもらうことで、愛着を持って長く使ってもらえる製品とする。

(お試しごと)

- ファブリカ村を訪問。近江麻を利用した製品作成に関してアドバイスを得た。
- がま口を利用した筆箱を作成中。



↑プレストの写真

#### 4) メンターの主な役割

- 当初持っていた「伝統」と「文具」の掛け合わせについて、実際の現場を知ってもらうため、ファブリカ村、コクヨそれぞれの方を紹介し、ヒアリングの機会を設けた。
- 上記ヒアリングを通じて「近江麻」を一つのフックとすることになったが、具体的な文房具の案が無い状態だったため、関連事例の調査、模造紙と付箋を使い、友人にも参加を依頼してのブレインストーミングを実施した。
- 出たアイデアのうち、最も形にしたいと感じるもの5つを選出し、完成品のイメージを持つため、プロトタイプづくりに着手。近江麻の端切れなどを素材としながら、簡易なものを作成した。
- プロトタイプ作成を通じて、素材などの費用面、とくに作業の手間などを考えると学業との両立が困難なことが判明し、まずは学業に専念することに。
- 一旦アイデアを引き継げる形にするため、完成品でなく素材をパッケージングしたキット販売での形を取ることにし、収支の仮組や販売計画の策定などを行った。

#### 5) 専門アドバイザー

- 北川陽子（ファブリカ村 代表／近江麻の専門）：滋賀の伝統に関する相談。
- 岡田佳美（コクヨ滋賀工場 開発グループ／商品開発の専門）：文房具の企画開発に関する相談。
- 小林優子（IDEA NOTE 代表／アクセサリ作家）：ものづくりに関する相談。

#### 6) 主なチーム活動

日付	活動	内容
2018/10/12	メンターと面談	活動状況の共有と今後の相談
2018/10/21	メンターと面談	ビジョンと問題構造の整理と活動プランに関する整理
2018/10/23	メンターと面談	ビジョンと問題構造の整理と活動プランに関する整理
2018/10/28	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：北川陽子氏・岡田佳美氏)	滋賀の伝統工芸の近江麻の活用と、文具開発に関する相談
2018/10/29	メンターと面談	活動状況の共有と今後の相談
2018/11/10	訪問（京都造形芸術大学）	染物学科の見学
2018/11/11	メンターと面談	プレストとアイデアづくり支援
2018/12/01	お試しごと (専門アドバイザー：小林優子氏)	プロトタイプ（ペンケース）の制作
2018/12/08	メンターと面談	活動方針に関する相談
2018/12/16	メンターと面談	これまでの活動内容の振り返りと、学内外での活動発表用のプレゼン資料作成支援
2018/12/21	メンターと面談	活動の進捗確認、休暇中のtodo確認など
2019/01/31	メンターと面談	活動のまとめ
2019/03/02	メンターと面談	発表資料作成、発表練習

### ③西の湖さとうみプロジェクトチーム

1) チーム名：西の湖さとうみプロジェクトチーム

2) メンバー：林 真澄・堀 豊・山田 恵美

3) 取り組み内容

(目的)

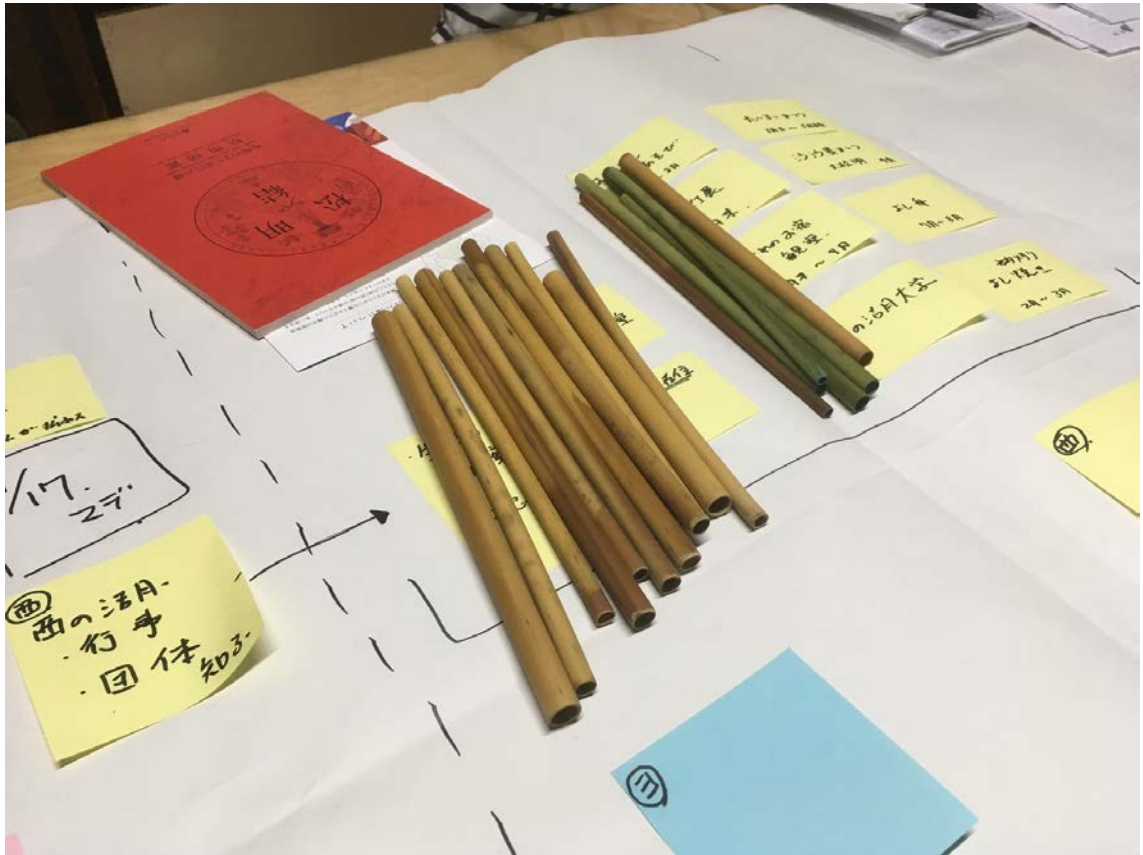
- 西の湖の自然をまるごと子ども達の学びの場とすべく環境整備を行う。
- 西の湖と人との共存（人が手を加えることで西の湖の生態系が守られる仕組みづくり＝さとうみ）。

(活動プラン)

- 西の湖を良くしようと活動する人や団体は数知れずあり、様々な取り組みがなされているものの、それぞれがバラバラで情報共有されていない。これを解決すべく、関連する取り組みや情報のアーカイブ化を行い、だれでも情報にアクセスでき、取り組みを行う人たちが連携できる体制を整える。
- 西の湖に群生するヨシ（葦）を活用したストローの開発を企画。ヨシ群の生態系を守ると共に、近年問題となっているマイクロプラスチック問題の解決の一助となることをめざす。

(お試しごと)

- 西の湖の歴史に詳しい語り部を訪問。後世に伝えるべく、聞き取った内容をアーカイブ化。
- ヨシストロー開発に向け、専門機関へ衛生面や食品衛生法に関する条件等を確認。
- ヨシの調達に向け各方面に相談していたところ、同じくヨシを活用した製品作りを計画していた方とめぐり合い、共同で進めるべく思案中。
- 今後、お洒落な喫茶店などでヨシストローの試作品を使用に協力してもらい、使い勝手や利用者の反応をモニターすることを計画。



↑試作したヨシストロー



↑ブレインストーミング

#### 4) メンターの主な役割

- リーダーの想い・やりたいことを共有するため、西の湖を取り巻く環境の理想像を言語化・視覚化した。
- 多様なバックグラウンドを持つメンバーの意見調整にも時間を割いて対応し、チームでの活動がスムーズにいくよう調整した。
- 西の湖周辺で活動している方々の紹介やマッチングを適宜実施し、塾生の活動具体化に寄与した。
- 活動途中の軌道修正として、西の湖の理想像を実現する以上に、まず塾生が自分自身でできることに立ち戻り、活動を再始動させた。
- 継続的な活動していくために、助成金申請のアドバイス・支援を行った。申請を通して自分たちがしたい活動の言語化、予算化などにつなげた。

#### 5) 専門アドバイザー

- 中津川えほんジャンボリー実行委員会（今年で11年目のアートイベント。中津川は農村歌舞伎が伝承されてきた地域の芝居小屋などが会場に、絵本や紙芝居をとおして地域の本物に触れる体験に取り組む組織）：イベント開催に関する相談。

#### 6) 主なチーム活動

日付	活動	内容
2018/10/17	メンターと面談	ビジョンややりたい事の共有
2018/10/18	メンターと面談	チームメンバーとビジョンややりたい事の共有
2018/10/25	メンターと面談	前回の打ち合わせの共有。アクションプランの作成
2018/11/15	メンターと面談	中間発表に向けた打ち合わせ
2018/12/06	メンターと面談	午前：DAY3の振り返り 午後：浅小井町 曳山とイ草の館訪問。副館長の桐原さんに浅小井町の歴史やヨシ地について案内いただく
2018/12中旬	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：中津川えほんジャンボリー実行委員会)	イベントの企画運営に関する相談
2018/12/28	メンターと面談	DAY3の振り返り、西の湖で活動する他の団体の取り組み事例を調査、お試しごと（ヨシストーリー）をとおして、チームの立ち位置をどう表現するか検討した。
2019/01/17	メンターと面談	今後チームとして継続的にイベント実施するために、助成金の申請企画書の文章を作成した。
2019/01/18	オンライン面談	企画書の推敲作業を行った。
2019/01/25	統括ディレクターとメンターと面談	経過報告や最終発表に向けた打ち合わせ
2019/03/01	メンターと面談	プレゼン資料作成ミーティング
2019/03/02	メンターと面談	プレゼン練習

#### ④学生団体BONDチーム

1) チーム名：学生団体BONDチーム

2) メンバー：山本 龍成・佐橋 果満太・古林 澄花

3) 取り組み内容

(目的)

- 学生というだけで大人に相手にしてもらえず、やりたいことを諦めざるを得ない社会を変える。
- やりたいことがある高校生のチャレンジを支援する。

(活動プラン)

- 高校生のチャレンジを支援する組織（BOND）の立ち上げ。
- 原則支援料は徴収せず支援を行う。
- 目下、運営資金の調達方法と、組織運営方法（やりたいことのある高校生が、どのようにしてBONDにアクセスし相談するのか等）を模索検討中。

(お試しごと)

- 滋賀県立大学と連携し、海外留学生を対象に着物を着ての近江八幡まち歩きを実施。海外留学生に日本ならではの体験をしてもらい、近江八幡に興味を持ってもらう機会とした。
- 今後、まずは身近な高校生のやりたいことを実現化すべく計画中。日牟禮八幡宮の能舞台を利用した着物ファッションショーや、近江八幡市内でのお買い物ツアー（参加者がそれぞれ食材を持ち寄り、調理して食卓を囲む交流の場）などを企画中。



↑相談風景（活動プランの整理を何度もブレストと構造図で整理）

4) メンターの主な役割

- 学生のやりたいことをサポートするうえで、まず塾生自身がやりたいことを形にする必要があるのではと提案し、塾生のやりたいことであった「着物でのまち歩き」「海外での研修」を二つの「お試しごと」に設定した。
- 塾生が活動する中で、次第に周囲の学生が活動に参加するようになり、最終7名の学生が関与するようになった。
- 学生同士ということもあり、非常にフラットな議論がなされていたが、一方でそれぞれのアイデアや意見の収集が付かないことが多く見受けられた。そのため、グループ活



動では模造紙と付箋を用いたブレインストーミングや意見整理を中心に行い、面談ではその模造紙をもとに議論の構造整理や、取るべきアクションの整理などを都度行うようにした。

- 「お試しごと」に際しては、事前のスケジュール管理や関係者への連絡に適宜留意し、適宜協力を得られる方の紹介を行った。

#### 5) 専門アドバイザー

- 前川真司（株式会社みんなの奥永源寺 代表取締役）：地域活性化の活動に関する相談主なチーム活動。
- 森雅貴（NPO法人ミラック 研究員）：組織のビジョンづくりと伴走支援の手法に関する相談。
- 牧貴士（高縞企画）：組織の活動内容について。

日付	活動	内容
2018/10/16	メンターと面談	活動素案・着物ファッションショー素案づくり
2018/11/13	メンターと面談	団体概要と目的についてのブレインストーミング
2018/11/23	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：森雅貴氏)	団体方針と事業についてのブレインストーミング
2018/11/24	メンターと面談	沖島ツアー打ち合わせ
2018/11/27	メンターと面談	着物ファッションショー最終調整
2018/12/15	お試しごと	着物ファッションショー
2018/12/18	メンバーミーティング	ファッションショー振り返り（団体内）
2018/12/20	メンターと面談	ファッションショー振り返り
2018/12/23	メンターと面談	年内の活動振り返り、実績整理など
2019/01/07	メンターと面談	事業事例調査
2019/01/14	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：前川真司氏)	地域活動の進め方、学生支援について
2019/01/25	統括ディレクターとメンターと面談	経過報告や最終発表に向けた打ち合わせ
2019/01/26	メンターと面談	カンボジアツアー行程確認
2019/01/29	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：牧貴士氏)	組織の活動内容について
2019/01/30 ~2/7	お試しごと	カンボジアツアー
2019/02/21	メンターと面談	活動振り返りと整理
2019/02/24	メンバーミーティング	カンボジアツアー振り返り（団体内）
2019/02/25	メンバーミーティング	カンボジアツアー振り返り（団体内）
2019/02/27	メンバーミーティング	カンボジアツアー振り返り（団体内）
2019/03/02	メンターと面談	発表練習

## ⑤沖島チーム

1) チーム名：沖島チーム

2) メンバー：塚本 千翔・谷川 陸

3) 取り組み内容

(目的)

- 沖島の活性化
- 沖島に人が集まることのできる居場所づくり。

(活動プラン)

- 沖島町離島振興協議会の協力を得ることで、島内の物件を利用した民泊施設の開業を計画。
- 民泊の営業可能日数も考慮し、生計を立てるため島と島外の2拠点生活も検討。
- 宿泊利用時以外は、沖島に興味を持って集まる人たちの交流の場としても活用を検討中(お試しごと)
- 島での困りごとについて島民へアンケートを実施。高齢化を理由とするゴミ捨て問題等に触れるも、実際の声としては特に困っていないとの回答を得た。その反面、漁協会館でコーヒー販売を行うなどしたところ好評であり、島内外の交流にニーズがあることを認識した。

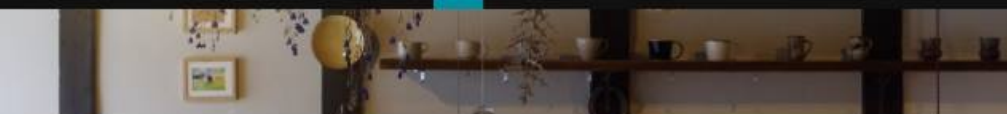
4) メンターの主な役割

- 塾生が当初に持っていた「二地域居住」「人の集まる拠点づくり」などの本人のやりたいこと、近江八幡の社会課題とをどうマッチングさせ、モチベーションを高く保つかに留意した。
- 興味関心のある地域で沖島を挙げていたため、離島振興協議会の方を紹介し、沖島の現状についての共有を依頼し、活動の方向性について適宜相談を行った。
- 拠点づくりにあたり、物件取得に向けて必要となる島の方々の信頼獲得のため、可能な限り沖島に足を運び、催事などへの参加・補助などを行うようにした。
- ゲストハウス開業に向けて、可能な限り細かい費用見積もりを行い、議論や協議会への共有を行った。

Y!mobile 10:31 93%


peraichi.com

プレビュー中 「CREATED BY ペライチ」の非表示



okishimaxminpaku  
koko

島内移動は徒歩または自転車。  
昭和時代のような街並み。  
聞こえてくるトンビの鳴き声。  
琵琶湖で獲れた湖魚（こぎょ）。  
360°琵琶湖に囲まれた環境。  
船でわずか10分。  
...




そんな沖島でゆったりとした「ひととき」をお過ごしいただければと思います。  
日本の淡水湖唯一の有人島「沖島」より。


concept

[湖 (ko) x 心 (ko) ]


「湖心 (こしん)」という言葉には湖の中心という意味があります。  
そんな琵琶湖の中心、滋賀の中心にたくさんの人々が訪れていただけたら幸いです。。  
[沖島はここ (koko) だよー。]



koko.から徒歩5秒。  
対岸には大津市。  
写真撮影スポットです。



春には桜が満開。  
たくさんの人で大賑わい。  
また、見れるといいな。



島では畑仕事も盛ん。  
道を歩いていると  
たくさんのお食とお会いすることも。

↑ゲストハウスのプロトタイプ (見本ページ)

#### 5) 専門アドバイザー

- 宮村利典（株式会社wallaby 代表取締役）：近江八幡の宿泊事情について。
- 本多由美子（もんで）：沖島の市民活動等に関する相談。
- 斎藤拓哉（民泊「隠れ家」代表）：法令関係の相談。

#### 6) 主なチーム活動

日付	活動	内容
2018/10/17	面談	方向性の確認、アクションプラン作成
2018/10/19	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：宮村利典氏)	近江八幡の宿泊事情についてヒアリング
2018/10/22	沖島訪問	民泊候補物件の内覧など
2018/11/04	お試しごと	催事出展、アンケート実施
2018/11/09	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：本多由美子氏)	協議会打ち合わせ
2018/11/11	沖島訪問	魅力発掘ツアー参加
2018/11/13	面談	アンケート結果解析、買い物代行など派生事業の検討
2018/11/17	面談	民泊活用物件の候補を比較検討
2018/11/24~25	沖島訪問	物件内覧など
2018/12/03	沖島訪問	民泊法令関係撃ち合わせ
2018/12/12	調査活動	消防署ヒアリング
2019/01/08	沖島訪問	物件近隣の挨拶まわり
2019/01/14	専門アドバイザーへ面談 (専門アドバイザー：斎藤拓哉氏)	物件のセキュリティ面、ウェブサイト制作など
2019/01/13	沖島訪問	左義長祭りの手伝い
2019/01/21	沖島訪問	協議会打ち合わせ
2019/01/24	沖島訪問	環境事務所申請
2019/01/25	統括ディレクターとメンターと面談	経過報告や最終発表に向けた打ち合わせ
2019/01/29	沖島訪問	工事立ち合い
2019/02/16	沖島訪問	物件改修
2019/02/21	面談	発表練習 消防検査
2019/02/25	沖島訪問	イベント「沖島の未来を考える会」に参加
2019/02/28	面談	発表練習

## 資料編

---

### 資料1 第1回講座配布資料（平成30年9月29日開催）

- (1)次第
- (2)ガイダンス資料
- (3)レクチャー資料①（中野桂氏）
- (4)レクチャー資料②（まっせ田口）
- (5)宿題の説明資料

### 資料2 第2回講座配布資料（平成30年10月13日開催）

- (1)次第
- (2)チーム分け案
- (3)レクチャー資料（山元圭太氏）

### 資料3 第3回講座配布資料（平成30年11月17日開催）

- (1)次第
- (2)中間発表サマリー
- (3)中間発表資料（子育て支援チーム）
- (4)中間発表資料（西の湖さとうみプロジェクトチーム）
- (5)中間発表資料（沖島チーム）
- (6)中間発表資料（学生団体BONDチーム）
- (7)成果報告資料（伝統×日常チーム）
- (8)レクチャー資料（小俣健三郎氏）

### 資料4 成果報告会配布資料（平成31年3月3日開催）

- (1)次第
- (2)コメントシート
- (3)経過報告資料
- (4)成果報告資料（子育て支援チーム）
- (5)成果報告資料（伝統×日常チーム）
- (6)成果報告資料（西の湖さとうみプロジェクトチーム）
- (7)成果報告資料（学生団体BONDチーム）
- (8)成果報告資料（沖島チーム）
- (9)レクチャー資料（中澤ちひろ氏）